

令和 8 年度

授業要綱
(シラバス)

美萩野保健衛生学院

— 目 次 —

生物学・	1
法学・	2
英語・	3
解剖学・	4
組織・発生学・	5
全身疾患の病態・	6
生化学・	7
口腔解剖学Ⅰ・	8
口腔解剖学Ⅱ・	9
生理学・	10
病理学・	11
微生物学・	12
薬理学・	13
口腔衛生学・	14
歯科衛生統計・	15
衛生学・公衆衛生学・	16
歯科衛生士概論・	17
保存修復学・	18
歯内療法学・	19
歯科補綴学・	20
口腔外科学・	21
歯科予防処置論・	22
歯科予防処置実習Ⅱ・	23
歯科保健指導論・	24
歯科保健指導実習・	25
歯科診療補助論・	26
歯科材料学・	27
歯科診療補助実習・	28
臨床検査法・	29
臨地・臨床実習・	30

— 目 次 —

心理学	31
倫理学	32
高齢者・障害者歯科学	33
栄養学	34
看護学概論	35
口腔衛生学	36
衛生行政	37
歯周療法学	38
小児歯科学	39
歯科矯正学	40
歯科麻酔学	41
歯科予防処置論	42
歯科予防処置実習Ⅰ	43
歯科予防処置実習Ⅱ	44
口腔保健管理法	45
訪問歯科保健指導	46
歯科保健指導論	47
栄養指導	48
歯科保健指導実習	49
歯科診療補助論	50
歯科診療補助実習	51
歯科放射線学	52
臨地・臨床実習	53
医療コミュニケーション	54
摂食嚥下機能療法学	55
接遇作法	56

— 目 次 —

情報処理論・	57
社会福祉論・	58
地域保健・	59
歯科予防処置実習Ⅱ・	60
歯科保健指導論・	61
歯科診療補助論・	62
歯科診療補助実習・	63
臨地・臨床実習・	64
校内実習・	65

学 科 目	生物学	担 当 者	守下 昌輝
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 生物学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科衛生士を目指す学生が基礎医学を学ぶために、理解しておくべき生物学の知識を理解する。

成績評価の方法、基準

定期試験で評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	生命について（生命とは・生命の誕生・生命の変遷）	1. 細胞の構造と基本的な機能を理解する。
2	組織と細胞（細胞・細胞小器官）	2. 遺伝と遺伝子について理解する。
3	細胞の機能・エネルギー代謝	3. 生命の発生について理解する。
4	細胞の一生（細胞分裂・複製）	4. 外部刺激の受容機構を理解する。
5	単細胞生物と多細胞生物・ヒトの組織	5. ホメオスタシスを理解する。
6	ヒトの器官	6. ホルモン及び自律神経系について理解する。
7	生殖の方法・減数分裂	7. 免疫について理解する。
8	遺伝と遺伝子	
9	発生の過程と仕組み	
10	刺激の受容と反応 （感覚器・嗅覚器・触覚器・味覚器・平衡感覚器）	
11	刺激の受容と反応（神経伝達・中枢神経・末梢神経）	
12	ホメオスタシス・体液	
13	ホルモンとその働き、自律神経の協調	
14	生体防御・免疫	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	法学	担 当 者	小池 順一
担当者の 実務経験	—		
実施学年	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	—		

授業科目の概要

・講義形式で行う ・「法学」の基礎を身につけるべく、判り易く解説・講義する ・適宜レジュメ等を配布する

成績評価の方法、基準

記述試験および出席率により、総合的に評価する

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	法の種類:公法と私法、実体法と手続法、成文法と不文法	「法学」の基礎を身に着け、社会における事象に関心を持ち、自分の考えを持つことができるよう思考力を養うことが、本講座の目標である。
2	法の適用、法の解釈	
3	憲法の基本原理、天皇	
4	国会、内閣	
5	裁判所	
6	労働法1ー労働法の起源、法源	
7	労働法2労働者の権利、労働基準	
8	国際法1ー国内法と国際法の関係	
9	国際法2ー外国の法律	
10	刑法1ー犯罪総論、犯罪とは何か	
11	刑法2ー様々な犯罪	
12	刑法3ーストーカー犯罪	
13	刑事訴訟法ー刑事裁判とは何か	
14	刑事政策刑務所の中	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	英語	担 当 者	海寶 康臣
担当者の実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び参考資料	歯科英語の練習帳 一歯の健康づくりをサポートする英語表現―(萌文書林)		

授業科目の概要

本科目では、歯科衛生士としての業務に関わる英語力の基礎を涵養する。歯科衛生士が英語で業務をする際に必要な語彙や表現を知識として身につけるとともに、その知識を活かして必要な情報を収集する力と、それを用いて自分が伝えたいことを表現する力を養う。テキストでの学習を通して、歯科衛生士が対応する必要がある様々な場面でのリスニング力とスピーキング力の向上を目指す。また、歯科に関する話題を扱った文章を用いてリーディング力の向上を目指す。

成績評価の方法、基準

定期試験 70%、小テスト 10%、提出物 10%、授業参加 10%

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	Orientation, Self-Introduction, Teeth Names, Types of Teeth	・テキストの各単元に登場する歯科衛生士の業務に関わる単語とフレーズ（以下、歯科単語、歯科フレーズと呼ぶ）の意味と発音の仕方が分かるようになる。 ・意味的なまとまりごとに後戻りせず英文を読む習慣を身につける。 ・歯科単語が用いられている発話や歯科フレーズを聴き取ることができるようになる。 ・歯科単語や歯科フレーズを場面に応じて使うことができるようになる。 ・積極的に英語を用いてコミュニケーションを取る習慣を身につける。 ・歯科に関する英文を読んで、必要な情報を収集する力を養う。 ・適切な英語学習の習慣を身につける。
2	Unit1 Appointment Reading Material for Week 2	
3	Unit2 At the Reception Desk (1) Reading Material for Week 3	
4	Unit3 Before the Treatment (1) Reading Material for Week 4	
5	Unit4 At the Reception Desk (2) Reading Material for Week 5	
6	Unit5 Before the Treatment (2) Reading Material for Week 6	
7	Unit6 Taking an X-ray Reading Material for Week 7	
8	Unit7 Dental Care Reading Material for Week 8	
9	Unit8 How to Brush Your Teeth Reading Material for Week 9	
10	Unit9 Smoking and Eating Habits Reading Material for Week 10	
11	Unit10 How to Prevent Gum Disease Reading Material for Week 11	
12	Unit11 Dental Health of Infants Reading Material for Week 12	
13	Unit12 Dental Health Activities Reading Material for Week 13	
14	Unit13 At an Adult Daycare Center Reading Material for Week 14	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	解剖学	担 当 者	中富 満城
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

疾病の成り立ちや治癒の過程を学ぶ為には人体の正常な構造についての正確な理解が必要不可欠である。本科目では人体の正常な構造と機能について器官系統別に分けて学習する。

成績評価の方法、基準

筆記試験にて60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	解剖学総論・骨格系1	①全身の主要な骨の名称を列挙できる。
2	骨格系2	②全身の主要な筋の名称と作用を説明できる。
3	骨格系3	③消化器系の構成器官と機能を説明できる。
4	筋系1	④呼吸器系の構成器官と機能を説明できる。
5	筋系2	⑤内分泌系の構成器官と機能を説明できる。
6	消化器系	⑥泌尿器系の構成器官と機能を説明できる。
7	呼吸器系・内分泌系	⑦生殖器系の構成器官と機能を説明できる。
8	泌尿器系・生殖器系	⑧脈管系の構成器官と機能を説明できる。
9	脈管系1	⑨中枢神経系の区分と機能を説明できる。
10	脈管系2	⑩脳神経12対の名称と機能を説明できる。
11	中枢神経系	⑪脊髄神経と自律神経の機能を説明できる。
12	末梢神経系1	⑫感覚器系の構成器官と機能を説明できる。
13	末梢神経系2	
14	感覚器系	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	組織・発生学	担 当 者	豊野 孝
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験1回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

組織学は人体を構成する細胞、組織ならびに器官の構造と機能との関連を研究する学問である。特に、本講義では口腔の構成諸器官である、歯、歯周組織、舌および唾液腺に関して詳細な解説を行う。発生学では、人体の発生過程における顔面や口腔諸器官の発生について理解を深め、臨床歯科学において重要である先天異常についての基礎的知識を得ることを目的として講義を行う。

成績評価の方法、基準

筆記試験において60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	細胞の構造と機能	1. 細胞膜、核、細胞内小器官の構造と機能を説明できる。
2	上皮組織と支持組織の構造と機能	2. 上皮組織と支持組織の構造と機能を説明できる。
3	皮膚、粘膜の構造と機能	3. 皮膚、粘膜の組織構造と機能を説明できる。
4	人体の発生	4. 人の受精から胎児期までを説明できる。
5	顔面および口腔の発生	5. 顔面および口腔の発生を説明できる。
6	歯の発生(蕾状期、帽状期)	6. 歯の発生の蕾状期から帽状期を説明できる。
7	歯の発生(鐘状期から硬組織形成初期)	7. 歯の発生の鐘状期から硬組織形成初期を説明できる。
8	エナメル質の構造と機能	8. エナメル質の組織構造と機能を説明できる。
9	象牙質の構造と機能	9. 象牙質の組織構造と機能を説明できる。
10	歯髄の構造と機能	10. 歯髄の組織構造と機能を説明できる。
11	セメント質の構造と機能	11. セメント質の組織構造と機能を説明できる。
12	歯根膜、歯槽骨の構造と機能	12. 歯根膜、歯槽骨の組織構造と機能を説明できる。
13	歯肉、口腔粘膜の構造と機能	13. 歯肉、口腔粘膜の組織構造と機能を説明できる。
14	唾液腺、舌の構造と機能	14. 唾液腺、舌の組織構造と機能を説明できる。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	全身疾患の病態	担 当 者	大谷 泰志 ・ 坂口 修 ・ 鶴島 弘基
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

高齢社会の到来により、全身に何らかの問題を抱えた高齢者や、基礎疾患を複数有する有病者が増加している。歯科治療においても、全身疾患に関する基礎知識が求められている。これは歯科医師のみならず、歯科衛生士においても共通の課題となっている。より安全で安心な歯科医療を提供する上で、必要不可欠な全身疾患の病態と歯科治療との関わりについて学習する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	循環器疾患1	1) 全身の臓器の解剖や機能について説明できる。 2) 全身の代表的な疾患について説明できる。 3) 歯科治療上、問題となる全身疾患について説明できる。 4) 救急処置の基本を身につける。
2	循環器疾患2	
3	消化器疾患1	
4	消化器疾患2	
5	内分泌・代謝疾患1	
6	内分泌・代謝疾患2	
7	呼吸器疾患	
8	血液疾患	
9	膠原病・自己免疫疾患	
10	感染症	
11	婦人科疾患泌尿器科疾患	
12	小児科疾患	
13	脳・神経疾患	
14	救急医療(BLS)	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	生化学	担 当 者	松原 琢磨
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 生化学・口腔生化学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

生化学とは、生物の中で起きている様々な生命現象を化学的に説明し、理解する学問である。
 生命現象の最小単位は「細胞」であり、講義では、この「細胞」の中で起きている最も重要な生命現象の一つである。
 「栄養素の消化とその代謝」を中心に学ぶ。
 さらに、臨床現場において必須である口腔領域の生化学的基礎知識についても習得する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	細胞、オルガネラ・水・酵素反応	1.生命現象の最小単位である「細胞」について学ぶ。 特に糖質、脂質、タンパク質という三大栄養素を中心に、それらがヒトの体内(細胞内)でどのように消化され、代謝されていくのかを理解する。 2.口腔内領域(結合組織、歯、唾液、歯垢類)に関する基礎的な情報(構成成分、生理機能を理解する。
2	五大栄養素	
3	エネルギー代謝・タンパク質合成	
4	歯と歯周組織の生化学	
5	硬組織の石灰化	
6	唾液	
7	歯の堆積物	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔解剖学Ⅰ	担 当 者	井手口 正
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯と口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

ヒトの口腔周囲の構造（歯の形態を含む）に関する基本的知識を習得する。

成績評価の方法、基準

定期試験（筆記試験、100点満点とし60点以上を合格とする。）

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔周囲の骨Ⅰ	口腔周囲の骨を概説できる。
2	口腔周囲の骨Ⅱ	
3	口腔周囲の筋Ⅰ	口腔周囲の筋を概説できる。
4	口腔周囲の筋Ⅱ	
5	口腔周囲の脈管Ⅰ	口腔周囲の脈管を概説できる。
6	口腔周囲の脈管Ⅱ	
7	口腔周囲の神経Ⅰ	口腔周囲の神経を概説できる。
8	口腔周囲の神経Ⅱ	
9	口腔周囲の内臓Ⅰ	口腔周囲の内臓を概説できる。
10	口腔周囲の内臓Ⅱ	
11	歯の形態および構造Ⅰ	歯種別の形態と特徴を説明できる。
12	歯の形態および構造Ⅱ	
13	歯の形態および構造Ⅲ	歯列と咬合について概説できる。
14	歯の形態および構造Ⅳ	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔解剖学Ⅱ	担 当 者	中富 満城
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯と口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

座学の講義で学んだ口腔や歯の解剖学的構造について、本実習を通して三次元的・立体的な理解を深める。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	前歯の形態と特徴	①切歯の形態と特徴を説明できる。
2	前歯のスケッチ1	②犬歯の形態と特徴を説明できる。
3	前歯のスケッチ2	③小臼歯の形態と特徴を説明できる。
4	上顎中切歯の歯型彫刻1	④大臼歯の形態と特徴を説明できる。
5	上顎中切歯の歯型彫刻2	⑤歯列形態の分析方法について説明できる。
6	臼歯の形態と特徴	⑥口腔付近の解剖学的構造を説明できる。
7	臼歯のスケッチ1	⑦歯の鑑別方法について説明できる。
8	臼歯のスケッチ2	
9	上顎第一小臼歯の歯型彫刻1	
10	上顎第一小臼歯の歯型彫刻2	
11	歯列形態の分析	
12	顔貌写真の分析	
13	口腔付近の構造	
14	歯の鑑別	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	生理学	担 当 者	稲永 清敏 ・ 安田 紘佳
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義・実験
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯と口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

生理学は、心臓はどのようにして血液を拍出するか、咀嚼はどのようにして行われるかなど、生体の正常な働き(生命現象という)を研究する学問である。疾患の治療は、正常な機能を営むことが出来なくなった人体を正常な機能に限りなく回復させることであるから、生理学は臨床医学を修得する上で重要な基礎となる学問である。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	3章 消化・吸収 ③ 口腔での消化 ⑤ 小腸の機能 ④ 胃の機能 ⑥ 大腸の機能	講義は、最初、人体全体の機能について学習し、後に歯科衛生士として特に必要な口腔生理学について、詳細な学習を行う。その概要は左記のようである。
2	4章 循環 ③ 血管の機能 ④ 血液	
3	4章 循環 ⑤ 心臓 5、心臓の拍動のコントロール 6、心臓の活動電位と心電図 5章 神経系①神経系の概要②神経系の主な反射③神経系の構成	
4	2章 筋と運動 ①概説 ②筋の構造と機能 ③運動 ④筋電図	
5	6章 呼吸 ①呼吸 ⑤肺胞および組織におけるガス交換 ②呼吸器の構造 ⑥血液中のO ₂ とCO ₂ の運搬 ③胸郭の構造と換気の仕組み ⑦呼吸の調節 ④肺気量	
6	8章 排泄 ①排泄とは ③皮膚からの排泄（発汗） ②排便 ④排尿	
7	9章 体温 ①体温の産生 ③体温の調節 ②体温の放散 ④体温の変動	
8	10章 内分泌 ①内分泌器官とホルモン ②内分泌器官の構造と機能 ③その他のホルモン ④歯とホルモン	
9	体温	
10	歯と口腔の感覚	
11	味覚と嗅覚	
12	咬合と咀嚼・吸綴	
13	嚥下と嘔吐、発声	
14	唾液	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	病理学	担 当 者	松尾 拡
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

病理学とは生体に起こる病的な状態(病気、疾病)の本態を追求する学問であり、病気を起こす原因、それぞれの病気で生じてくる変化、その経過、そしてそれがためにたどる転帰を一本の軸とし、関連する事項をも含めて論ぜられる。Ⅰ編病理学総論においては病気を総論的視点から一般的通則として把握することを主眼として講義を行い、引き続いて行われる。Ⅱ編口腔病理学の内容を理解する上でも必要不可欠の基礎的項目を教授する。病理学講義が病気を総論的視から一般的通則として把握することを主眼とするのに対しⅡ編 口腔病理学講義は、病理学における一各論と位置付けられ、口腔顎顔面領域という臓器・組織の特殊性を十分把握しながら、そこに起こる病変の特徴などについて理解することを主眼とする。口腔顎顔面領域の各病変について、組織・細胞レベルから歯科臨床に直結する内容にわたり歯科医療に携わるものとして必須の項目について教授する。

成績評価の方法、基準

試験 100点満点とし、60点以上を合格とします。

講義内容と学習目標

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	Ⅰ 編 病理学総論 1章 病理学序論と病因論	1.病理学の学問的枠組みを理解する。 2.内因と外因について理解する。
2	2章 遺伝性疾患と奇形	先天異常について理解する。
3	3章 循環障害	循環障害について理解する。
4	4章 代謝障害と退行性病変	代謝障害、退行性病変(萎縮、変性、壊死、アポトーシス)について理解する。
5	5章 増殖と修復	肥大と増生、化生、再生と修復、創傷治癒、異物処理について理解する。
6	6章 炎症と免疫応答異常	1、炎症について理解する。2.免疫の仕組み及び病的状態について理解する。
7	7章 腫瘍	腫瘍を総論的に理解する。
8	Ⅱ 編 口腔病理学 1章 歯の発育異常 2章 歯の損傷と着色・付着物	1.歯の発育異常について理解する 2.歯の損傷と着色・付着物について理解する。
9	3章 う蝕 4章 象牙質・歯髄複合体の病態	1.う蝕について理解する。2.歯髄炎、歯髄の退行性変化、象牙質の増生、知覚過敏症について理解する。
10	5章 歯周組織の病態	根尖性歯周疾患、辺縁性歯周疾患、エプーリスについて理解する。
11	6章 口腔腔粘膜の病変	口腔粘膜疾患について理解する。
12	7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍	口腔領域の主な嚢胞と腫瘍について理解する。
13	8章 口腔癌 9章 顎骨の病変	1.口腔潜在的悪性疾患、口腔癌について理解する。 2.顎骨の主な病変について理解する。
14	10章 唾液腺の病変 11章 口腔領域の奇形 12章 口腔組織の加齢変化	1.唾液腺の主な疾患について理解する。 2.口腔領域の奇形について理解する。 3.口腔組織の加齢変化について理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	微生物学	担 当 者	辻澤 利行
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

口腔内の二大疾患である翻蝕や歯周病をはじめ、口腔疾患には微生物が原因で起こる感染症が多い。そのため、病原体の性状や発症メカニズムおよび生体の防御機構などを理解しておく必要がある。微生物学では、微生物の種類と一般的性質、病原微生物による感染症とそれに対する生体の抵抗力(免疫学)について学ぶ。また、歯学に関連深い内容として、口腔内に常在する微生物とプラーク形成との関わり、歯離虫や歯周炎などの口腔感染症との関連について学ぶ。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、1 0 0 点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	微生物学概論(微生物の種類と特徴、微生物の生物学的位置、微生物の発見) 細菌学総論(細菌の形態と特徴、染色性、構造)(1-A-a、b)	下記の国家試験出題基準が説明できるようになることを目標とする。 1. 一般性状 A 細菌 (a形態 b構造 c代謝 d増殖) B ウイルス (a構造 b増殖)
2	細菌の生理(培養環境と栄養)、(栄養と物質代謝、物理的・化学的環境、細菌の培養、エネルギー代謝と物質代謝、分裂と増殖)(2-A-a、b、1-A-c、d)	2. 観察方法 A 培養法 (a細菌の培養法 b細菌の培地 cウイルスの培養法) B 細菌の顕微鏡観察
3	ウイルスの性質(特徴、構造、分類、培養方法、増殖方法ほか) 真菌の性質(特徴、形態、増殖方法、分類ほか) 原虫の性質(特徴と構造ほか)(1-B、2-A-c、6-I、J)	3. 感染 A 微生物の病原性 (a毒素 b菌体表層物質 c組織破壊酵素 d内因性及び外因性感染) B 宿主の抵抗性 (a体液中の抗菌物質 b食細胞 c炎症反応) C 感染の成立 (a感染と発症 b不顕性感染) D 感染経路 (a直接感染 b間接感染) E 感染の種類 (a日和見感染 b内因感染 c院内感染)
4	感染と感染症、感染源と感染経路、侵入門戸と付着、感染の成り立ちと感染症後の経過、常在微生物叢、内因感染と外因感染ほか (3-A-d、3-C、3-E、7-A、B)	4. 免疫 A 免疫の種類 (a自然免疫 b獲得免疫 (体液性免疫、細胞性免疫を含む) c能動免疫 d受動免疫 e自己免疫 (免疫寛容) f免疫不全 g移植免疫) B 免疫機構 (a免疫関連臓器 b免疫担当細胞 c抗原 d抗体 eサイトカイン)、 C 抗原抗体反応 (a凝集反応 b沈降反応 c補体結合反応 d毒素中和反応 eウイルス中和反応)
5	バイオフィルムとバイオフィルム感染症、感染経路、感染機構、ビルレンスの決定因子(3-A-a、b、c、3-D、8-A、B)	D アレルギー E 補体
6	毒素と酵索(外毒素と内毒素、組織破壊酵素など) (3-A-a、b、c、4-C-d)	5. 化学療法 A 化学療法薬 (a作用機序 b抗菌スペクトル c薬剤耐性 d副作用 eウイルスに対する化学療法)
7	滅菌と消毒(定義、物理的/化学的処理に対する微生物の抵抗性、 代表的な滅菌方法ほか) 化学療法(作用機序、抗菌スペクトル、薬剤耐性ほか)(9-A、B、C、5-A)	6. 病原微生物とプリオン A グラム陽性球菌 B グラム陰性球菌 C グラム陽性桿菌 D グラム陰性桿菌 E スピロヘーター F リケッチア G クラミジア H ウイルス (aDNAウイルス bRNAウイルス) I 真菌 J 原虫 K プリオン
8	免疫の種類とその概要 (非自己とは、自然免疫と獲得免疫、能動免疫と受動免疫、液性免疫ほか) (3-B、4-A、B、C、D、E)	7. 口腔環境と常在微生物 A 微生物と口腔環境 (a唾液 b歯肉溝液) B 口腔内常在微生物 (a口腔内レンサ球菌 b歯垢微生物叢 c唾液微生物叢 d舌微生物叢 e口腔粘膜微生物叢 f歯肉溝微生物叢)
9	免疫グロブリン、細胞性免疫、アレルギーほか(3-B、4-A、B、C、D、E)	8. バイオフィルムとしてのプラーク (歯垢) A 形成機序 B バイオフィルムとバイオフィルム感染症
10	病原細菌学各論(グラム陽性菌、グラム陰性菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマほか)(6-A、B、C、D、E、F、G)	9. 消毒と滅菌 A 定義 (具体的方法は、歯科診療補助論で出題する) B 消毒法 C 滅菌法
11	口腔細菌学各論(グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性桿菌、スピロヘーターほか)(6-A、B、C、D、E、F、G、7-A、B)、8-A、B、C、10-A、11-A	10 う蝕 A う蝕原因菌
12	病原微生物学各論 (ヘルペス、B型C型肝炎ウイルス、ヒト免疫不全ウイルス、カンジダほか) (6-H、1、J、K)	11 歯周病 A 歯周病原菌
13	プラークのグラム染色と陰性染色 (2-B、7-B、8-B)	
14	プラークのグラム染色と陰性染色の観察 (2-B、7-B、8-B)	
15	まとめ・定期試験	

学科目	薬理学	担当者	竹内 弘 ・ 東 泉
担当者の実務経験	—		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単位数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3 薬理学 第 2 版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

薬理学では、薬と生体のかかわりについての基本的知識を習得するとともに薬物治療の重要性を理解する。総論では薬理学の基本的な用語、薬の生体内運命、薬の作用の仕方、薬の効き方に影響する因子、薬の有害作用について学習する。また、医薬品の分類や正しい保管及び取り扱いについても学ぶ。各論では、よく使用される薬及び歯科衛生士として知っておくべき薬を中心に薬理作用や副作用等を学び、薬物療法の基本的知識を身につける。

成績評価の方法、基準

筆記試験の点数が60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授業内容	到達目標
1	薬理学総論(1)	医薬品の分類、医薬部外品、劇薬、毒薬、麻薬、向精神薬、処方箋、薬物の配合変化と適切な保存方法を説明できる。
2	薬理学総論(2)	薬物療法の種類、薬理作用の基本様式、薬物の作用機序を説明できる。
3	薬理学総論(3)	薬物の適用方法の種類と特徴、薬物動態(吸収、分布、代謝、排泄)について説明できる。
4	薬理学総論(4)	薬理作用を規定する因子である薬物の併用(協力作用、拮抗作用、相互作用)、連用(蓄積、耐性、薬物依存)について説明できる。
5	薬理学総論(5)	薬理作用を規定する因子であるライフステージ、遺伝的素因、プラセボ効果等について説明できる。 薬物の一般的な副作用、有害作用、特に口唇・口腔・顎顔面領域に出現する副作用について説明できる。
6	薬理学各論(1)	自律神経系作用薬(アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬)の薬理作用、作用機序、副作用について理解する。
7	薬理学各論(2)	自律神経系作用薬(コリン作動薬、抗コリン薬)、筋弛緩薬の薬理作用、作用機序、副作用について理解する。
8	薬理学各論(3)	局所麻酔薬の薬理作用、作用機序、副作用、血管収縮薬の配合意義について理解する。
9	薬理学各論(4)	主な循環器系作用薬の薬理作用、作用機序、副作用について理解する。
10	薬理学各論(5)	抗炎症薬(ステロイド系、非ステロイド系)、解熱鎮痛薬、抗ヒスタミン薬の作用機序、薬理作用、副作用について理解する。
11	薬理学各論(6)	主な呼吸器系作用薬の薬理作用、作用機序、副作用について理解する。血液系作用薬(止血薬、抗血栓薬、抗貧血薬)の特徴と薬理作用に関係する因子について理解する。
12	薬理学各論(7)	主な中枢神経作用薬(全身麻酔薬、向精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬)の特徴と口腔領域に出現する副作用について理解する。
13	薬理学各論(8)	主な中枢神経作用薬(鎮痛薬、中枢興奮薬)について理解する。
14	薬理学各論(9)	抗感染症薬の分類と作用機序、副作用について説明できる。消毒薬の作用機序、有効範囲について理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔衛生学	担 当 者	角 田 聡子
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

口腔衛生学では、健康の概念、齲蝕と歯周疾患を中心に歯科疾患の疫学的な現状、口腔疾患の成り立ちと予防について理解する。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔保健と公衆衛生	①口腔衛生の意義が説明できる。
2	歯科疾患の疫学と歯科保健統計	②口腔と健康について説明できる。
3	歯・口腔の基礎知識（1）	③歯と口の発育と歯科疾患等に伴う変化について説明できる。
4	歯・口腔の基礎知識（2）	④歯と口腔環境について説明できる。
5	口腔疾患の成り立ち（1）	⑤歯・口腔の不潔について説明できる。
6	口腔疾患の成り立ち（2）	⑥口腔清掃の意義と方法について説明できる。
7	口腔疾患の成り立ち（3）	⑦口腔清掃用具について説明できる。
8	まとめ・定期試験	⑧歯磨剤・洗口剤について説明できる。
		⑨ブラッシングの方法について説明できる。
		⑩う蝕と歯周疾患の病因について説明できる。
		⑪口臭・口腔乾燥症、口腔がん、顎関節症、不正咬合などの口腔疾患の病因について説明ができる。

学 科 目	歯科衛生統計	担 当 者	邵 仁浩
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科保健活動や歯科臨床に携わる歯科衛生士として知っておくべき、疫学の基本概念、保健医療統計調査の種類と概要、歯科疾患の指標、統計の基礎等について学習する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	保健医療統計調査の概要と国家統計の種類 保健情報および保健統計の概要、公的統計の主な役割と法的な根拠、国家統計の種類（基幹統計及び一般統計）について学習する。	・ 公的統計の主な役割と国家統計の種類を説明できる。
2	疫学の概念と疫学研究の概要 疫学研究の種類と特徴、エビデンスレベル、標本の抽出方法及び因果関係、相関等について学習する。	・ 疫学研究の種類と特徴、エビデンスレベルを説明できる。
3	疾病頻度の指標、スクリーニング 有病率と罹患率の相違、粗死亡率と年齢調整死亡率の相違等を学習する。また、健診におけるスクリーニング検査の役割を学習する。	・ 疾病頻度の指標、スクリーニング検査の役割を説明できる。
4	歯科疾患の指数 う蝕の診断基準と各種指数、歯周疾患の各種指数、不正咬合の指数及び歯のフッ素症の診断基準について学習する。	・ う蝕、歯周病等の各種指数を説明できる。
5	口腔清掃の各種指数 口腔清掃に関する各種指数の特色、診査部位、診査基準、評価方法、指数計算について学習する。	・ 口腔清掃状態の各種指数を説明できる。
6	衛生統計の基礎 統計データの種類（量的データ及び質的データ）、度数分布、平均値、中央値、最頻値、正規分布の特徴等について学習する。	・ 統計データの種類、度数分布、正規分布の特徴等を説明できる。
7	衛生統計の基礎 標準正規分布及びその応用例、推定及び検定の方法と特徴、衛生統計における有意差の考え方を学習する。	・ 衛生統計における有意差の考え方を説明できる。
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	衛生学・公衆衛生学	担 当 者	秋房 住郎
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

公衆衛生の法的根拠と国の責務, 健康と疾病の概念, 疫学の基本的な考え方, 世界と日本の人口の動向, 環境の概念と健康への影響, 疾病の現状と予防対策, 地域保健活動（行政組織の概要, 母子保健, 成人・高齢者保健, 学校保健, 精神保健等）, 産業保健（職業性疾病, 労働災害を含む）, 災害時の保健医療対策, 国際保健協力等について学習し, わが国の保健医療対策の現況等について理解する。

成績評価の方法, 基準

筆記試験を行い, 100点満点とし, 60点以上を合格とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	健康と予防医学の概念, 疫学 公衆衛生の法的根拠と国の責務, 健康の定義, プライマリヘルスケア, ヘルスプロモーション及び予防医学の概念について学習する。また, 疾病の発生・流行状況を表す指標, 疫学の概要について学習する。	公衆衛生の法的根拠と国の責務, 健康の定義, 予防医学の概念, 疫学の概要を説明できる。
2	人口の動向, 人口動態 人口の年次推移および将来予測, 国勢調査, 人口動態統計, 合計特殊出生率及び年齢調整死亡率の動向, 死因別死亡率等について学習する。	人口静態統計, 人口動態統計, 健康に関連した各種指標を説明できる。
3	健康と環境 環境の概念, 空気の成分, 温熱環境, 水質基準, 放射線の種類, 地球温暖化, 廃棄物処理等について学習する	環境の概念, 空気の成分, 温熱環境, 水質基準, 放射線防護対策, 地球温暖化対策, 廃棄物処理等について説明できる。
4	感染症対策, 食品と健康 感染成立の要因, 感染症対策と感染症の分類, 新興感染症・再興感染症等について学習する。また, 食品の安全管理対策, 食中毒, 栄養摂取基準, 国民健康・栄養調査等について学習する。	感染症対策, 食品の安全管理対策, 栄養摂取基準, 国民健康・栄養調査等を説明できる。
5	地域保健活動, 健康づくり対策 地域保健の概念, 地域保健の行政組織, 保健所・市町村保健センターの役割等について学習する。また, 健康づくり対策の変遷, 健康日本21(第2次), 歯科保健目標等について学習する。	地域保健活動の概念, 健康日本21(第2次)等の健康づくり対策, 歯科保健目標を説明できる。
6	産業保健・成人保健・精神保健 労働衛生に関する3大管理, 労働災害の防止, 生活習慣病の予防, 精神疾患について学習する。	産業保健の概念, 職業性疾病, 労働災害, 安全衛生管理体制と健康管理対策等, 生活習慣病, 精神保健を説明できる。
7	災害保健, 国際保健 災害保健活動の概要, 災害時の歯科保健医療対策, 災害時の個人識別等について学習する。また, 世界保健機関の役割, 諸外国との国際協力・国際交流活動等について学習する	災害時の保健医療対策と活動, 世界保健機関の活動, 諸外国との国際協力等を説明できる
8	まとめ・定期試験	講義内容のすべてを整理して説明できる。

学 科 目	歯科衛生士概論	担 当 者	坂本 真記子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学概論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科医療の特異性と歯科衛生士の果たす役割を考える。その業務における義務や責任について理解し、医療に携わる者としての心構えを養う。

成績評価の方法、基準

レポート提出や筆記試験の総合評価とする。筆記試験は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科衛生学とは	・ 歯科衛生士に関する法律と歴史を理解する。
2	歯科衛生の歴史と現状	・ 医療倫理について考える。
3	歯科衛生と健康	・ 歯科衛生士の業務を理解する。
4	歯科衛生士法と関係する法規	・ インフォームドコンセントについて理解する。
5	歯科衛生士と倫理	・ 歯科医療の特異性を学ぶ。
6	歯科衛生実践のための理論	・ 医療に携わる者としての心構えを考える。
7	歯科衛生実践の展開	・ 自分の目指す歯科衛生士像を考える。
8	医療安全確保における歯科衛生士の役割	
9	保健・医療・福祉の制度と多職種連携	
10	災害時における歯科衛生活動	
11	歯科衛生士の国際化	
12	組織活動	
13	歯科衛生士のキャリア形成	
14	歯科衛生実践の実際	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	保存修復学	担 当 者	村田 一将
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯は体の外部環境に晒される部位に形成される唯一の硬組織であり、自己修復能の極めて低い組織である。 そのため、歯の組織疾患は他の組織にはない特殊性が存在する。特に齲蝕は発生頻度の高い疾患であり、微生物感染症をはじめとする他因子に起因する。本科目では、齲蝕をはじめとする硬組織疾患とその修復法について、口腔衛生指導、予防処置および診療補助等、歯科衛生士業務遂行に必要な知識を修得させる。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	保存修復学概論	・保存修復の意義と目的、種類/齲蝕と、他の歯の硬組織疾患/保存修復処置の手順/診査法について理解する。
2	器具・器材および診査方法	・保存修復処置に用いられる器具、器材/修復前処置と補助的器材/歯髄保護処置について理解する。
3	診査方法及び歯髄保護	
4	窩洞と修復法1(概論)	・窩洞概論・分類法/修復法概論について理解する。
5	修復法2(CR修復)	・成形修復1・成形修復の概要とコンポジットレジン修復について理解する。
6	修復法3(GIC修復)	・成形修復2・グラスアイオノマー修復について理解する。
7	修復法4(インレー修復1)	・インレー修復1・インレー修復の概要とメタルインレー修復について理解する。
8	修復法5(インレー修復2)	・インレー修復2・ポーセレンインレーおよびコンポジットレジンインレー修復/合着用セメントについて理解する。
9	修復法6(ラミネートベニア修復)	・ラミネートベニア修復/保存修復学の現在と未来について理解する。
10	修復法7(審美治療)	
11	修復法8(審美治療)	
12	修復法8(臨床推論)	
13	実習 CR修復GIC修復	・レジン窩洞ブラックⅢ級、グラスアイオノマーセメント根面齲蝕の外形線描記/窩洞形成/光重合レジン充填グラスアイオノマーセメント充填について理解する。
14		
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯内療法学	担 当 者	鬼塚 理
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯髄炎・根尖性歯周炎は口腔内に多発する疾患である。これらの疾患ではう蝕あるいは歯周疾患から影響を受けることが多いため、歯周疾患との混合感染により発症する歯髄炎・根尖性歯周炎についても説明し、疾患ごとに病因、診断、治療法を学習させる。臨床的な内容については診療補助を中心として説明するが、治療の最終ゴールを提示し歯髄炎・根尖性歯周炎ならびに歯周疾患との関係についても学習させる。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯内療法の概要	・歯内療法の目的を説明できる。
2	歯髄保存療法、歯髄の除去療法	・歯髄炎の進行程度による治療法の違いを説明できる。
3	根管治療	・根管治療の目的と手技を説明できる。
4	根管充填	・根管充填の目的と手技を説明できる。
5	外科的歯内療法	・外科的歯内療法の種類と手技を説明できる。
6	歯の外傷	・歯の外傷の原因と治療法を説明できる。
7	歯内療法における歯科衛生士の役割	・歯内療法における歯科衛生士の役割を説明できる。
8	歯内療法における診療補助	・歯内療法の各治療における流れと使用器材を説明できる。
9	実習1 ラバーダム防湿・天蓋除去	・ラバーダム防湿の準備・実施ができる
10		・天蓋除去の準備ができる。
11	実習2 根管拡大・形成	・ラバーダム防湿・天蓋除去の診療補助ができる。
12		・根管拡大・形成の準備ができる。
13	実習3 根管充填	・根管拡大・形成の診療補助ができる。
14		・根管充填の準備ができる。
15	まとめ・定期試験	・根管充填の診療補助ができる。

学 科 目	歯科補綴学	担 当 者	安増 絵理 ・ 正木 千尋
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回 （ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科補綴治療に関する基礎知識および治療の実践を教授するとともに歯科衛生士の役割について確認する。

成績評価の方法, 基準

定期試験の結果で100点満点とし60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科補綴治療の意義と目的	・ 歯科補綴治療の意義について理解する。
2	補綴装置（クラウン・ブリッジ）	・ 各種補綴装置（クラウン・ブリッジ）の概要，構成要素，分類について理解する。
3	補綴装置（クラウン・ブリッジ）	
4	補綴装置（有床義歯）	・ 各種補綴装置（有床義歯）の概要，構成要素，分類について理解する。
5	補綴装置（有床義歯）	
6	補綴装置（インプラント・特殊口腔内装置）	・ 各種補綴装置（インプラント・特殊口腔内装置）の概要，構成要素，分類について理解する。
7	歯科補綴治療の基礎知識	・ 各歯科補綴用語，下顎運動を理解する。
8	歯科補綴治療の基礎知識	・ 口腔の機能について理解する。
9	歯科補綴治療における各種検査	・ 歯科補綴治療の際に行われる各種検査方法を理解する。
10	クラウン・ブリッジ治療	・ クラウン・ブリッジ治療の流れと診療補助を理解する。
11	クラウン・ブリッジ治療	
12	有床義歯治療	・ 有床義歯治療の流れと診療補助を理解する。
13	有床義歯治療	
14	インプラント治療	・ インプラント治療の流れと診療補助を理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔外科学	担 当 者	原口 和也
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

口腔外科臨床で取り扱う内容について、概説し各疾患についての特徴及び、治療法について学習する。 また、口腔外科領域の手術についての術式、器具及び、麻酔法についても講義を行い、口腔外科手術アシスタントに際しての知識、技能についても習得することを目的とする。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔外科学総論、診察・診断の実際	・口腔外科の概要 口腔外科の概要と内科系疾患とのかかわりについて理解を深める。
2	口腔領域の先天異常・変形	
3	口腔領域の損傷、顎関節疾患	
4	口腔粘膜疾患、血液疾患と出血性素因	
5	顎口腔領域の炎症、顎口腔領域の嚢胞	
6	顎口腔領域の腫瘍	
7	唾液腺疾患、口腔領域の神経性疾患	
8	小手術概論（実習前講義）、麻酔 周術期の口腔機能管理	
9	1. 手指消毒、手術用グローブの着脱法	
10	2. 感染予防対策	
11	3. 脈拍測定及び血圧測定	
12	4. 器具の名称と取り扱い方	
13	5. 埋伏抜歯のトレーセットと器具の 受渡し	
14	以上の項目を3ローテーションで実習し、技能の習得を行う。	
15	まとめ・定期試験	
		・口腔外科治療の主な疾患 口腔外科治療における歯科衛生士の役割について理解を深める。
		・口腔外科領域の麻酔 緊急蘇生法を含めた歯科麻酔について理解を深める。

学 科 目	歯科予防処置論	担 当 者	山口 絵里
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

医療技術の発展に伴い、歯科衛生士の資質そのものの向上の必要性が求められている。
 その中で必要とされる歯科予防処置や歯周病予防に関する知識を習得する必要がある。
 そこで基礎知識から相互実習に必要な知識までを1年を通して学んでいく。

成績評価の方法、基準

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置の概論	・ 歯科予防処置及び歯周病予防の基礎知識を身につける ・ 歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。 ・ 歯や口腔に関する基礎知識を身につける。 ・ 全身及び口腔の状態を的確に観察する能力をつける。
2	基礎知識①	
3	基礎知識②	
4	付着物・沈着物	
5	う蝕・歯周病	
6	スケーリング	
7	口腔内の情報収集	
8	キュレットスケーラー及び手用スケーラー	
9	シャープニング	
10	プロービング	
11	超音波スケーラーとエアースケーラー	
12	歯面研磨	
13	PMTC	
14	感染予防・偶発事故・相互実習	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）	担 当 者	山口 絵里
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	2 5 回（実技試験を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科予防処置実習の基礎・基本となる、手技的スキルを1年間かけて実施する。
 鎌型スケーラー及びキュレットスケーラーの模型実習を行い、その技術習得を図る。
 手技の対象が常に生きている人であることを踏まえ、しっかりした手技に熟練していかなければならない。

成績評価の方法、基準

レポート・実技試験・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	鎌型スケーラー基礎実習1	・ 予防的歯石除去法を的確に行う技術を身に付ける。 ・ スケーラーの使用方法を熟知する。 ・ 模型実習にて基本を学び、相互実習に応用できる技術を身に付ける。 ・ ユニットでの模型実習を取り入れ、より実践に近い形態での訓練を行う。また、ユニットでの訓練を繰り返すことで、ユニット操作やライティングの上達を目指す。
2	鎌型スケーラー基礎実習2	
3	鎌型スケーラー前歯部1	
4	キュレットスケーラー基礎実習	
5	キュレットスケーラー模型実習前歯部1	
6	鎌型スケーラー模型実習前歯部2	
7	キュレットスケーラー模型実習前歯部2	
8	鎌型スケーラー模型実習前歯部3	
9	キュレットスケーラー模型実習前歯部3	
10	シャープニングと全体の復習	
11	鎌型スケーラー模型実習臼歯部1	
12	キュレットスケーラー模型実習臼歯部1	
13	鎌型スケーラー模型実習臼歯部2	
14	キュレットスケーラー模型実習臼歯部2	
15	鎌型スケーラー模型実習臼歯部3	
16	キュレットスケーラー模型実習臼歯部3	
17	シャープニングと全体の復習	
18	鎌型スケーラー模型実習臼歯部4	
19	キュレットスケーラー模型実習臼歯部4	
20	鎌型スケーラー模型実習臼歯部5	
21	鎌型スケーラー模型実習	
22	鎌型スケーラー実技試験	
23	キュレットスケーラー模型実習臼歯部5	
24	キュレットスケーラー模型実習	
25	キュレットスケーラー実技試験	

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科衛生士にとって重要な分野を占める歯科保健指導の基礎を固め、平行して学習する実習を円滑に行えるようにする為のものである。 また、全身の健康と口腔、対象を取り巻く環境とを関連付けた好ましい歯科保健行動がとれるように専門的な立場から支援できる基本的な知識を学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置論・歯科保健指導論の必要性	・ 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。
2	口腔の基礎知識	・ 歯科保健指導を個人と集団に分けて説明できる。
3	歯面の付着物・沈着物 歯垢染色剤について	・ 歯・歯周組織と口腔の構造と機能を説明できる。
4	口腔衛生状態の指数（PCR）	・ 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。
5	口腔衛生状態の指数（OHI）	・ 歯垢染色剤の使用方法和特徴が説明できる。
6	歯ブラシについて（歯ブラシの種類・特徴）	・ 口腔清掃や歯周疾患、う蝕の指標を説明できる。
7	PMA・禁煙指導（歯肉の炎症・喫煙が及ぼす害）	・ 口腔衛生管理に関する清掃用具を説明できる。
8	まとめ・定期試験	・ 禁煙指導・支援ができる。

学 科 目	歯科保健指導実習	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	1 単位	授業回数	2 4 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

・専門的な知識と技術を充実させるために様々な実習を通して身に付けていく。 ※理解度に応じ、実習内容の変更あり。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、実習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	各種染色法体験学習 染色剤についてグループ実習	歯垢染色剤の特徴を理解し、場面に合った染色方法を選択できる。 歯科保健指導に用いる各種チャートを正確に作成できる。 実際に歯石を視診、触診し検出できる。 各種ブラッシング方法を修得する。 健康な歯肉、病的な歯肉を観察しチャートに記入できる。
2	歯垢染色・チャート記入練習 (PCR)	
3	歯垢染色・チャート記入練習 (PCR)	
4	歯垢染色・チャート記入練習 (OHI)	
5	歯石の観察 (OHI)	
6	ブラッシングの基礎知識 各種ブラッシング方法	
7	歯肉の観察 (PMA・OHI—S)	
8	歯垢染色・チャート記入練習 (総合)	
9	補助的清掃用具の使用方法実習 電動歯ブラシなど	
10	補助的清掃用具の使用方法実習 デンタルフロス・歯間ブラシ	
11	症例別指導Ⅰ：矯正装置装着者、義歯装着者	電動歯ブラシ（音波・超音波歯ブラシ）の特徴を理解し、適切に使用できる。 デンタルフロス・歯間ブラシ他の特徴を理解し、適切に使用できる。 対象別の口腔状況を把握し適切なブラッシング方法及び補助的清掃用具を選択できる。 歯磨剤の成分と作用を理解できる。 間食の意義が理解できる。口腔衛生上、良い間食と悪い間食を理解できる。 保健指導において重要なコミュニケーションについて演習を通して理解する。
12	症例別指導Ⅱ：In. CR. Br. インプラント	
13	歯磨剤の種類・成分	
14	症例別指導Ⅲ：自分の口腔内に合った磨き方	
15	試験対策 中間振り返り	
16	実技テスト：ブラッシング方法、チャート計算	
17	間食指導 演習	
18	コミュニケーションの重要性Ⅰ 演習	
19	コミュニケーションの重要性Ⅱ 演習	
20	歯科衛生過程の進め方 演習	
21	歯科衛生介入：POMR（問題志向型診療録）演習	
22	歯科衛生介入：POMR（問題志向型診療録）実習	
23	情報を共有することの重要性（グループ実習）	
24	まとめ 振り返り	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。
 歯科材料の取り扱いを中心に、他の科目との関連を掴む。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。

成績評価の方法、基準

出席状況・レポート・筆記試験等の総合評価とする。60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科診療補助の概念	・歯科診療補助の業務内容と法的解釈を理解する ・診療補助を行う医療職種とその業務について理解する
2	医療安全と感染予防 滅菌と消毒	・医療安全の概念とその対策を説明できる ・歯科医療における感染症の概念を理解する ・各種滅菌法、消毒法の基礎知識を理解する ・医療廃棄物の分類と分別を理解する
3	歯科診療で扱う歯科材料 （アルジネート印象材・寒天印象材）	・アルジネート印象材の特徴・用途を理解する ・寒天印象材の特徴・用途を理解する
4	歯科診療で扱う歯科材料 （模型材）	・歯科用石膏の特徴、種類、用途を理解する。
5	成形歯冠修復材の基礎知識と取り扱い	成形修復材の特徴、種類、用途を理解する
6	歯科診療室の基礎知識 1	・歯科診療室の環境、設備について理解する
7	歯科診療室の基礎知識 2	・ユニットの取り扱いについて理解する
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科材料学	担 当 者	永松 有紀
担当者の実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科臨床において、歯科材料はう蝕治療後の窩洞につめるコンポジットレジン等の成形修復材料をはじめとして、金属やセラミックスなどのクラウンやインレー用の歯冠修復材、口腔内の形をとる印象材、それらを模型化する石膏系の模型材料など、多種多様である。歯科医療従事者は日常の臨床で使用する各歯科材料について、諸性質や標準的取扱ひ法、注意事項などを理解する必要がある。また、診療補助において、適切な準備・操作に加えて、的確なタイミングも要求される。歯科衛生士に必要である各種歯科材料の材料学的知識を深めることで、臨床における材料の適切な保管・取扱ひ法の習得に繋げることを目的とする。

成績評価の方法、基準

課題レポートと筆記試験（記述式・選択式併用）の合計点を100点満点とし、60点以上を合格とする。自由レポート提出者には2～5点の加点を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	1. 序論 2. 歯科材料の種類と所要性質	・ 歯科臨床の現場で必要となる材料のそれぞれの性質ならびに特徴についての知識をもち、それらの材料をどのような点について注意して操作することにより、最適な状態が得られるかを理解する。
2	3. 歯科材料の基礎的性質 ①機械的性質, ②物理的性質	
3	3. 歯科材料の基礎的性質 ③化学的性質, ④生体安全性	
4	4. 印象材 ①所要性質, ②種類と分類, ③弾性印象材1	
5	4. 印象材 ③弾性印象材2, ④非弾性印象材, その他の印象材	
6	4. 印象材（総括）5. 模型材 ①所要性質, ②歯科用石膏1	
7	5. 模型材 ③歯科用石膏2	
8	6. 歯科用セメント ①所要性質, ②種類と用途	
9	6. 歯科用セメント ③各種合着材・接着材・他	
10	7. 歯冠修復材 ①成形修復材1 「コンポジットレジン」	
11	7. 歯冠修復材①成形修復材2 「その他」 ②その他の歯冠修復材料	
12	7. 歯冠修復材 ②その他の歯冠修復材料2	
13	7. 歯冠修復材（総括）8. 仮封材・その他の材料	
14	9. 最新の歯科器材・技術10. 総括（全講義内容の振り返り）	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	1 年 前期・後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	1 単位	授業回数	2 5 回（実習試験を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科材料の特性及び取り扱いの習得を中心に、各歯科治療内容に必要な器材器具の名称・用途・取り扱い方を理解する。また、円滑な診療が行えるように共同動作の方法を学ぶ。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。

成績評価の方法、基準

レポート・実技試験・実習への取り組みを総合評価とする。100点満点とし、60点以上を合格とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科診療補助の概念と基礎知識（衛生材料作成実習）	・医療従事者としての身だしなみを身につける。・基本的な器具の持ち方、使用用途に合わせた衛生用品の作成方法が習得できる。
2	医療安全と感染予防対策	・手指消毒法を理解し、実施できる。
3	アルジネート印象材①【模型実習】【計量と練和】	・印象材の基本的な取り扱いを実施する。
4	アルジネート印象材②【模型実習】【上顎】	・印象材の練和と管理を理解し実施する。
5	アルジネート印象材③【模型実習】【下顎】	・印象採得の手順を実施する。
6	歯科診療で扱う歯科材料	・酸化亜鉛ユーグレナール印象材・モデリングコンパウンド・合成ゴム質印象材の特性を理解する。
7	寒天印象材（寒天アルジネート連合印象）	・連合印象採得の一連の流れを理解する。
8	無歯顎印象材	・非弾性印象材を使った無歯顎印象採得を体得する。
9	合成ゴム質印象材	・シリコーンゴム印象材の印象採得（ダブルミックス法）を体得する。
10	模型材①	・標準混水量を把握する。
11・12	模型材②	・印象採得から石膏注入までの一連の流れを実施する
13	合着材・接着材の基礎知識と取り扱い	・合着材や接着材の特徴、種類、用途を理解する
14	セメント練和の基本 リン酸亜鉛セメント	・JIS法の分割と時間配分を理解し、実施する。
15	セメント練和の基本 ガラスアイオノマーセメント/ポリカルボキシレートセメント	・各セメントの特性を理解し練和を実施する。
16	接着性レジンセメント	・接着性レジンセメントの特性・取り扱いを理解する。
17	歯科用レジンの知識と取り扱い 即時重合レジン/コンポジットレジン	・即時重合レジンの特性と取り扱いを実施する ・コンポジットレジンの特性と取り扱いを実施する
18	歯科診療における基礎知識 3	・診療室の環境、設備について理解する
19	保存修復時の診療補助 【講義】	・保存修復治療の特徴と手順を理解する
20	保存修復時の診療補助（隔壁の種類と取り扱い）	・トッフルマイヤー型マトリックスリテーナーを実際に取り扱う。
21	歯内療法時の診療補助 【講義】	・歯内療法の治療の特徴を理解する。
22	歯内療法時の診療補助	・根管充填剤の練和を行う ・根管治療で使用する器具の名称と用途を理解する
23	歯科材料の取り扱い【実習試験前】	・1年次の総復習を実施する。
24・25	実習試験 1・2	

学 科 目	臨床検査法	担 当 者	瀬田 千尋
担当者の 実務経験	—		
実施時期	1 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 臨床検査（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基本的な生理機能と疾患の関係に基づいて導きだされる臨床検査結果が示す意味について全身との関係を踏まえて講義を進める。

成績評価の方法, 基準

筆記試験を行い、100点満点とし60%の正答率をもって合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	臨床検査の意義と概要について	・ 基本的な生理機能について復習する。 ・ 疾患別に必要な検査項目と検査結果の関係を学習する。 ・ 臨床において異常値を示した場合の対応について学習する。
2	生体検査（生理機能検査）	
3	生体検査（生理機能検査）	
4	検体検査（一般検査・血液学的検査）	
5	検体検査（生化学的検査）	
6	微生物・病理検査	
7	口腔領域の検査	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の 実務経験	九州歯科大学附属病院勤務の実習指導者		
実施時期	1 年 後期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	—
テキスト及び 参考資料	—		

授業科目の概要

机上で学んだ知識・技術を実際の医療現場に活用する。

実習を通じて、即戦力としての技術を習得し、歯科衛生士の仕事に対する理解を深める。

患者様への接し方、やさしい心配りの大切さを学ぶ。

口腔保健の専門職としての自覚と責任をもち、これまでに習得した知識・技術を集約して、実践できる能力を養う。

成績評価の方法、基準

レポート・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
九州歯科大学附属病院見学実習 九州歯科大学附属病院内の診療科のうち 6 日間見学実習を実施する。	・ 歯科医学の最先端である病院において、それぞれの医局の特徴を知り、学院にて学んだ知識や技術を再確認する。 ・ 各科専門の診療体系を理解し、歯科医療チーム内での歯科衛生士の役割を認識する。 ・ 臨床科目の理解を深め、課題を通して基礎知識の整理を行う。 ・ 患者様と医療スタッフの対応を見学し、医療従事者としての自覚を高める。

学 科 目	心理学	担 当 者	松尾 多加志
担当者の 実務経験	—		
実施時期	2 年前・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	1 5 回（ 試験1回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 心理学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

対人援助職として働くうえで、必要な心理学の基礎知識について理解する。また、ワークを通して、自己理解や他者理解を促し、人の心について学びを深める。※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

評価基準は、秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	オリエンテーション第1章 見る・聞く・感じるころ	・人の行動を理解するために必要な、人間の知覚についての理解を深める。
2	第2章 学ぶ・覚えるころ	・学習のメカニズムを知り、人の行動の成り立ちについての理解を深める。
3	第3章 やる気の心理	・人の行動の原因を知るため、動機や欲求などについての理解を深める。
4	第4章 喜怒哀楽のころ	・感情の種類・メカニズムまたストレスへの対処方法についての理解を深める。
5	第5章 その人らしさの心理 ―パーソナリティー―	・パーソナリティーの特徴や障害について学び、自己理解・他者理解を深める
6	第6章 かしこさの心理	・人間の知能について学び、また高齢化社会で増えてる認知症についての理解も深める。
7	第7章 考えるころ	・考え・推論・批判・創造などといった人が「考える」ということについて理解を深める。
8	第8章 発達するころ（1）	・人間の一生の間に生じるさまざまな心理・行動上の変化である発達について理解を深める。
9	第9章 発達するころ（2）	・人の生涯にわたる心身の変化をとらえ、こころの発達過程について理解を深める。
10	第10章 人と関わる心理	・人がどのように人間関係を展開していくか、人との関わりがいかにより不可欠なものであるかについて学びを深める。
11	第11章 人と集うころ	・集団の特性と集団の中での人の行動の特徴について理解を深める。
12	第12章 健康なころ	・こころの健康が損なわれる状態について、またその状態に対する心理面からの援助について理解を深める。
13	第13章 カウンセリングのころ	・聴く技術、患者への支援姿勢について、理解を深める。
14	試験対策・振り返り	・定期試験に向けて、講義の振り返りを行い、学習の定着を進める。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	倫理学	担 当 者	村岡 宏祐
担当者の 実務経験	—		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

医療の進歩と生命の尊厳の融和は今日の医療の大きな課題である。 特に医療倫理や生命倫理の理解が重要である。 このため、患者との信頼関係に基づく医療を提供できるように、インフォームド・コンセント、QOLについての知識を習得する。さらに、歯科医療現場で、あまり遭遇しない生と死の問題についても理解する。

成績評価の方法, 基準

筆記試験を行い, 100点満点とし, 60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	医療倫理の概要	医療従事者の基本的義務などについて理解できる
2	医療倫理に関する規範とバイオエシックスについて	歯科衛生士の職業倫理に関する規範とバイオエシックスについて理解できる
3	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントについて基礎的知識を習得する
4	医療倫理と研究	研究で医療倫理がなぜ必要かについて理解できる
5	歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動	歯科医療従事者と患者の行動について理解ができる
6	患者の個人情報などについての歯科医療従事者に必要とされること	患者の個人情報, 臨床実習での身だしなみの意義などについて理解ができる
7	医療倫理に関連する規範と法令	職業倫理に関する規範と患者の権利に関する宣言などについて理解ができる
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	高齢者・障害者歯科学	担 当 者	久保田 潤平 ・ 多田 葉子 ・ 唐木 純一 ・ 藤井 航
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院などで勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回 （ 試験1回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科（医歯薬出版）		

授業科目の概要

【障害者歯科】身体的、知的、精神的な障害のある患者の特徴を知り、歯科治療を円滑に行うために必要な対応法を学ぶ。特に障害のある患者に必要な口腔管理について、歯科衛生士による予防処置、口腔保健指導・管理を学習する。 【高齢者歯科】高齢者を取り巻く環境を知り、口腔や全身の加齢変を学ぶ。また、摂食嚥下リハビリテーションやオーラルフレイルなど口腔機能に関して学習する。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。 評価基準は、秀：90点以上、優：80点以上、良：70点以上、可：60点以上、不可：59点以下とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	障害者の現況	【障害者歯科】 1. 障害とは何かを説明できる 2. ノーマライゼーションを説明できる。 3. 障害者歯科における口腔衛生管理を説明できる。 4. 障害者の行動調整法を説明できる。 5. 障害者歯科における歯科衛生士の役割を説明できる。 6. 障害の種類と特徴を説明できる。 7. 摂食機能の発達を説明できる。 8. 地域医療連携の必要性を説明できる。
2	障害の種類と歯科的特徴①	
3	障害の種類と歯科的特徴②	
4	障害者の歯科医療と行動調整①	
5	障害者の歯科医療と行動調整②	
6	障害者歯科における口腔健康管理	
7	摂食嚥下機能の発達	
8	高齢者歯科の現状	
9	高齢者の健康と疾病	【高齢者歯科】 1. 高齢社会の現状を説明できる。 2. 高齢者の保健・医療・福祉を説明できる。 3. 介護保険制度を説明できる。 4. 地域包括ケアシステムの概要を説明できる。 5. 高齢者の口腔の加齢変化を説明できる。 6. 高齢者の全身疾患について説明できる。 7. 高齢者の生活機能評価について説明できる。 8. 摂食嚥下障害について説明できる。 9. 高齢者歯科における歯科衛生士の役割を説明できる。
10	高齢者の口腔の加齢変化	
11	高齢者の全身疾患	
12	高齢者の生活機能	
13	摂食嚥下障害	
14	高齢者に関わる医療と介護	
15	定期試験	

学 科 目	栄養学	担 当 者	増田 渉
担当者の 実務経験	—		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝（医歯薬出版）		

授業科目の概要

生物は生命維持や生活活動のためにエネルギーを必要とするとともに、日々、生体成分が入れ替わっている。そのため、エネルギーとなる物質や補充する物質を補給する必要がある。これが栄養素であり、これを体内で代謝し、生命活動を営む現象を栄養と呼んでいる。栄養学では5大栄養素の役割、エネルギー代謝の基礎、消化・吸収の意味などについて学ぶ。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び授業への参加態度、出席状況により単位を認定する。筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	栄養と食生活	・ 栄養素の特徴や生体における代謝過程や役割を理解し、食生活と健康の関連性、特に、歯科衛生士にとって関連深い、咀嚼機能やう蝕などと栄養、食生活との関連を理解することを目的とする。
2	消化と吸収	
3	水・電解質の栄養的意義	
4	糖質の栄養1	
5	糖質の栄養2	
6	脂質の栄養1	
7	脂質の栄養2	
8	タンパク質の栄養1	
9	タンパク質の栄養2	
10	ビタミンの栄養	
11	ミネラルの栄養	
12	食品の分類・食品成分表	
13	食事摂取基準	
14	献立作成（演習）	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	看護学概論	担 当 者	郡谷 香菜子
担当者の 実務経験	—		
実施時期	2 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生士のための看護学大意 第4版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

看護師の業務内容など、歯科衛生士と看護師の相違点
医療従事者としての知っておきたい事などを中心とした授業

成績評価の方法、基準

試験の成績、提出物の内容、授業態度

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	病院における歯科衛生士の役割 歯科衛生士の活動の場	1. 看護師とは、どのような仕事をしているのかを知る。 2. 歯科衛生士と看護師との相違点がわかる。 3. 医療従事者として、何が大切か。 何が必要かがわかる。
2	看護の概念 看護の歴史 看護とは	
3	歯科衛生士が知っておくべき看護技術 バイタルサインについて バイタルサインの測定方法 患者とのコミュニケーション 患者への支援	
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術	
5	歯科衛生士に必要な看護実務 患者の観察および治療経過の記録の作成 入院を要する患者の看護・救急時の看護	
6	歯科衛生士に必要な看護実務 洗浄・消毒・滅菌 感染対策 医療安全対策	
7	地域医療活動における歯科衛生士の役割 ・地域社会における看護のあり方 ・在宅医療における歯科衛生士の役割	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔衛生学	担 当 者	角 田 聡子
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 1 保健生態学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

口腔衛生学では、う蝕と歯周疾患の他、関連疾患を含めた口腔疾患の成り立ちと予防について理解すると共に、地域歯科保健活動について理解する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔疾患とその関連疾患の予防（1）	①う蝕と歯周疾患の予防方法について説明できる。
2	口腔疾患とその関連疾患の予防（2）	②フッ化物の基礎と応用について説明できる。
3	口腔疾患とその関連疾患の予防（3）	③口臭・口腔乾燥症、口腔がん、顎関節症、不正咬合などの口腔疾患の予防方法について説明ができる。
4	ライフステージごとの歯科保健管理	④ライフステージごとの歯科保健管理について説明できる。
5	特別な支援が必要な人への歯科保健管理	⑤特別な支援が必要な人への歯科保健管理について説明できる。
6	地域歯科保健（1）	⑥地域（歯科）保健について説明できる。
7	地域歯科保健（2）	⑦母子（歯科）保健について説明できる。
8	まとめ・定期試験	⑧学校（歯科）保健について説明できる。 ⑨産業（歯科）保健について説明ができる。 ⑩成人・高齢者（歯科）保健について説明ができる。

学 科 目	衛生行政	担 当 者	秋房 住郎
担当者の 実務経験	—		
実施時期	2 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の制度		

授業科目の概要

歯科衛生士は臨床業務に従事するに当たり、保健医療・公衆衛生に関する法律や制度について知識を身に付けておく必要がある。そのため、衛生行政では、わが国の保健医療行政の仕組み、医療施設や医療従事者の概況、国民の受療動向、保健・医事・薬事等の関連法規と政策の概要について学習する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	衛生行政の概要 国民の健康状態と受療動向	衛生行政では、保健医療行政の仕組み、保健・医事・薬事等の関連法規と政策の概要等を理解し、概説できることを学習目標とします。 講義内容に沿った個別の到達目標は下記の通りです。 ①行政組織の概要を理解する。 ②国民の健康状態と受療動向を理解する。 ③医療従事者および医療施設等の現況を概説できる。 ④医療法を概説できる。 ⑤歯科衛生士法を概説できる。 ⑥歯科医療関係者の資格法を概説できる。 ⑦歯科以外の医療関係者の資格法を概説できる。 ⑧薬事衛生法規を理解する。 ⑨保健衛生法規および予防衛生法規を理解する。
2	医療法 医療従事者および医療施設等の現況	
3	歯科衛生士法	
4	歯科医師法 歯科技工士法	
5	保健師助産師看護師法 その他の医療従事者の資格法	
6	薬事衛生法規	
7	保健衛生法規 予防衛生法規	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯周療法学	担 当 者	中村 太志
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施学年	2 年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯周病学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯周組織の解剖や機能を理解し、歯周疾患の原因とその成立から分類、全身疾患との関連を知る。
 歯周治療に必要な診査、診断、治療法を知り、さらに歯周治療における歯科衛生士の役割について詳細に学ぶ。
 スライドおよび配布資料を用い、テキストの補充を行う。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計

回数	授業内容	到達目標
1	歯周治療とは 正常な歯周組織の構造と機能	①歯周疾患と歯周療法の概要を説明できる。
2	歯周疾患の分類	②歯周疾患の分類とその症状について説明できる。
3	歯周疾患の原因 歯周疾患と全身の状態との関わり	③歯周疾患の原因・発症を説明できる。
4	歯周治療の進め方 歯周疾患の診査	④歯周診査法を理解し、歯周治療に使用する器具名、薬品名の 使用法を理解し、説明できる。
5	歯周基本治療(1)	⑤スケーリング・ルートプレーニングについて理解し、 スケーラーの構造、特性、操作法について説明できる。
6	歯周基本治療(2)	⑥歯周外科について理解し、そのアシスタント法について 理解し、説明できる。
7	歯周基本治療(3)	⑦歯周治療のメインテナンスの重要性を理解し、歯科衛生士 としての役割を理解し、説明できる。
8	歯周基本治療(4)	
9	歯周外科治療(1)	
10	歯周外科治療(2)	
11	歯周外科治療(3)	
12	歯周外科治療(4)	
13	口腔機能回復療法 インプラント周囲組織について	
14	歯周治療のメインテナンス および歯周安定期治療	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	小児歯科学	担 当 者	西田 郁子
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

小児は成長発育過程にあるため、その身体的および精神的発育の特徴について理解し、小児の歯科治療を安全に行えるよう、その対応法について学習する。また、小児期の主な疾患異常（齲蝕、歯周疾患、感染性疾患、軟組織疾患、歯列不正）とその治療の特徴および予防法について学習する。

成績評価の方法、基準

成績評価方法：定期試験結果 基準：60点以上を合格とする

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	発育概論 小児の精神的および運動機能の発達	小児歯科の特徴と意義・目的を理解する。発達の原則を学習し、各発育段階における特徴（身体的、精神的、運動機能、言語、情動の発達）について理解する。
2	小児の生理的特徴 顎顔面と頭蓋の成長発育	小児のバイタルサインとその特徴を理解する。 脳頭蓋、顔面頭蓋の発育の特徴およびその発育様式を理解する。
3	歯の発育および異常	歯の発育段階と形成異常について理解する。
4	歯列および咬合の発育	歯列および咬合の発育段階とその特徴について理解する。
5	乳歯および幼若永久歯の特徴	乳歯および幼若永久歯の形態的特徴、組織学的・物理化学的特徴を理解する。
6	小児期のう蝕の特徴	う蝕の病因を学習し、乳歯う蝕および幼若永久歯のう蝕の特徴について理解する。
7	小児期のう蝕予防	乳歯う蝕の為害作用について学習し、小児期に行われるう蝕予防処置（ブラークコントロール、フッ化物の応用、小窩裂溝填塞法、食事指導）について理解する。
8	感染性疾患・軟組織疾患 小児期の歯周疾患	小児の口腔粘膜や歯肉にみられる疾患について理解する。小児の歯周組織の特徴を学習し、小児期にみられる歯周疾患について理解する。
9	小児期の歯科治療体系総論	小児歯科診療の特徴、流れを学習し、母親教室、定期健診の目的・意義について理解する。
10	小児の対応法	小児期の年齢別対応法、歯科治療時の対応法の種類と特徴について理解する。
11	小児期における歯冠修復	乳歯と幼若永久歯の臨床的特徴と歯冠修復時の特徴について理解する。
12	小児期における歯内療法	乳歯と幼若永久歯の歯内療法の特徴、診療補助について理解する。
13	小児期における外科的処置	小児期の外科的処置（抜歯、膿瘍切開）の特徴および診療補助について学習する。小児期の歯の外傷について理解する。
14	咬合誘導	咬合誘導の意義・目的、保隙装置の種類および特徴について理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科矯正学	担 当 者	黒石 加代子
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等にて勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

歯科矯正学は、不正咬合や咀嚼障害の原因・予防および治療法を研究する歯学の一分野である。従って、その基礎と臨床に関して基本的な事項を修得する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科矯正学概論	・ 歯科矯正学とは。 ・ 歯科矯正治療の目的と必要性 ・ 顎, 歯, 歯列の成長発育の特徴 ・ 正常咬合の成立条件 ・ 正常咬合の種類 ・ 不正咬合の種類。分類。原因 ・ 歯の移動様式と組織反応 ・ 資料の種類と作り方。使用方法 ・ 器具・器材の名称と使用方法 ・ 装置の名称と使用方法
2	成長・発育	
3	正常咬合	
4	不正咬合, 不正咬合の原因	
5	検査と診断	
6	矯正歯科治療における生体力学と生体反応	
7	矯正歯科治療と矯正装置（1）	
8	矯正歯科治療と矯正装置（2）	
9	矯正歯科治療と矯正装置（3）	
10	矯正歯科治療に伴うリスクとその反応, 矯正歯科治療に用いる器材と使用・手順（1）	
11	矯正歯科治療に用いる器材と使用・手順（2）	
12	口腔筋機能療法（MFT）, 矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導	
13	マルチブラケット装置の装着及び調整方法	
14	総復習	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科麻酔学（救急処置法）	担当者	左合 徹平
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2 年 後期	授業の方法	講義
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

近年、歯科治療技術の進歩により口腔インプラント、歯周外科などの外科処置が盛んに行われている。このような高侵襲の処置は快適・安全に行わなければならない。加えて、高齢社会に伴い何らかの全身疾患を持つ有病者が増加する傾向にあるが、歯科治療によって全身疾患が増悪することもある。以上のことより、歯科においても全身管理が必要になる。ここでは、全身評価のためのバイタルサインのチェック法、歯科治療を円滑に行うための麻酔法、歯科治療時に起こる偶発症への予防・対処法、緊急事態に対する救急蘇生法について学ぶ。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科麻酔の役割、歯科麻酔における歯科衛生士の役割	1. 歯科衛生士に必要な歯科麻酔の知識を習得する。
2	全身の評価法、ストレスに対する生体の反応	2. 全身の評価法を列挙できる。
3	バイタルサインの意味と見方	3. ストレスに対する生体反応を説明できる。
4	歯科における麻酔法	4. バイタルサインの説明ができる。
5	局所麻酔 (局所麻酔薬の種類と含有物、表面麻酔、浸潤麻酔、伝達麻酔)	5. 血圧・脈拍の測定ができる。
6	精神鎮静法（笑気吸入鎮静法、静脈内鎮静法）	6. 歯科の麻酔法を列挙し、説明できる。
7	全身麻酔（吸入麻酔、静脈麻酔、気管内挿管麻酔）	7. 局所麻酔法を説明できる。
8	一次救命処置(気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫)	8. 局所麻酔薬の添加物の役割と作用を説明できる。
9	一次救命処置（AED、窒息の解除）	9. 精神鎮静法の適応を説明できる。
10	ACLS（静脈路確保、救急薬剤）	10. 笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法の利点・欠点を説明できる。
11	歯科治療時の偶発症 (過換気症候群、神経性ショックなど)	11. 精神鎮静法に使用する薬剤を説明できる。
12	有病者歯科治療 (虚血性心疾患、脳血管傷害、糖尿病、高血圧症など)	12. 全身麻酔法と適応について説明できる。
13	実習(バイタルサイン、CPR、AED、笑気吸入鎮静法)	13. 確実なCPRを修得する。
14		14. 傷病者に対するAEDの使用法を修得する。
15	まとめ・定期試験	15. 窒息の解除法を修得する。
		16. ACLSについて説明できる。
		17. 静脈路確保に必要な物の準備ができる。
		18. 救急蘇生に必要な薬剤を説明できる。
		19. 歯科治療時の偶発症を説明できる。
		20. 偶発症の対処・予防法を説明できる。
		21. 歯科治療時に注意を要する全身疾患を説明できる。
		22. 口腔顔面痛を説明できる。
		23. 歯に関連痛を誘発する疾患を列挙できる。

学 科 目	歯科予防処置論	担 当 者	坂本 真記子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

治療を中心とする歯科医療から予防中心の歯科医療へシフトされている中、歯科衛生士の役割も変化しつつあります。このような状況の変化に対応するとともに、ライフステージに応じた口腔の健康増進や個々の生涯を通じた継続的なう蝕予防、口腔管理を行えるように知識・技術を習得する。

成績評価の方法、基準

出席状況・受講態度・課題提出状況及び定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科予防処置の基礎知識 総論	・う蝕予防処置の基礎的知識を習得する。 ・う蝕予防処置の手段を理解する。 ・う蝕の病因論を理解し説明、予防や理論・メカニズムなどを明確に把握することができる。
2	う蝕の基礎知識 1	
3	う蝕の基礎知識 2	
4	う蝕活動性試験 1	
5	う蝕活動性試験 2	
6	う蝕活動生試験 3	
7	フッ素の知識	
8	フッ化物の応用 1	
9	フッ化物の応用 2	
10	フッ化物の応用 3	
11	フッ化ジアンミン銀の応用	
12	小窩裂溝填塞法 1	
13	小窩裂溝填塞法 2	
14	集団応用について	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅰ（う蝕予防）	担 当 者	坂本 真記子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	1単位	授業回数	24回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版（医歯薬出版）		

授業科目の概要

う蝕予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、臨床に必要な実践能力を身につける。

成績評価の方法、基準

出席状況・実習態度・課題及び定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	う蝕活動性試験 1	・口腔内の状況を記録・説明することができる。 ・プロフェッショナルケアの技術を熟読する。 ・う蝕予防処置に用いる器具・器材を把握する。 ・処置内容、注意事項などを事前・事後に説明することができる。 ・術前、術後の説明・指導ができる。
2	う蝕活動性試験 2	
3	う蝕活動性試験 3	
4	う蝕活動性試験 4	
5	う蝕活動性試験 5	
6	う蝕活動性試験 6	
7	フッ素の予防効果	
8	フッ化物応用法 洗口法 1	
9	フッ化物応用法 洗口法 2	
10	フッ化物局所応用法 歯ブラシ法	
11	フッ化物局所応用法 トレー法 1	
12	フッ化物局所応用法 トレー法 2	
13	フッ化物局所応用法 イオン導入法 1	
14	フッ化物局所応用法 イオン導入法 2	
15	フッ化物局所応用法 イオン導入法 3	
16.	フッ化物局所応用法 歯面塗布法 1	
17	フッ化物局所応用法 歯面塗布法 2	
18	フッ化物局所応用法 歯面塗布法 3	
19	フッ化物局所応用法 歯面塗布法 4	
20	小窩裂溝填塞法	
21	小窩裂溝填塞法	
22	フッ化ジアンミン銀塗布	
23	試験対策	
24	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ(歯周病予防)	担 当 者	山口 絵里
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	1単位	授業回数	24回(試験1回を含む)
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)		

授業科目の概要

歯科予防処置や治療についての知識だけでなく、正確な診査・的確な診断能力を養い、口腔衛生指導・歯石除去・う蝕予防処置・メンテナンスを確実にを行うことが出来る能力を身に付ける。

成績評価の方法、基準

実習態度・実習レポート・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回 数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	各種歯口清掃法の基本習得実習	・処置を行うにあたり、全身状態を把握し、かつ必要な口腔内の状況を正確に診査、分析する能力を習得する。 ・適切な器具を選択でき、正しい操作ができること。 ・実施にあたっては、対象者の口腔内ばかりでなく、全身的・心理的にも配慮出来る。
2	フオーンズ法 チャート記入練習・歯石観察	
3	スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	
4	バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	
5	バス法・スクラッピング法 チャート記入練習・歯石観察	
6	ローリング法・チャーターズ法 チャート記入練習・歯石観察	
7	相互実習のための訓練1	
8	相互実習のための訓練2	
9	歯石探知 模型・相互実習	
10	歯石探知 模型・相互実習	
11	ミラーの訓練 模型・相互実習	
12	ミラーの訓練 模型・相互実習	
13	鎌型スケーラー 模型実習	
14	キュレットスケーラー 模型実習	
15	手用スケーラー 相互実習	
16	手用スケーラー 相互実習	
17	プロービング 模型・相互実習	
18	プロービング 模型・相互実習	
19	超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
20	超音波スケーラーと歯面研磨実習 模型実習1	
21	超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
22	超音波スケーラーと歯面研磨実習 相互実習1	
23	試験対策	
24	まとめ・定期試験	

学 科 目	口腔保健管理法	担 当 者	坂本 真記子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	配布資料		

授業科目の概要

生涯を通じた口腔保健管理を目標にし、口腔観察・口腔清掃から業務記録に至るまでをライフステージ合わせた指導・管理が出来るようにする。

成績評価の方法、基準

出席状況・受講態度・課題・定期試験に基づき総合的評価を行う。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞1	・患者様からの情報を正確に捉え、正しく情報を読み取る。そのために何をどう記録し、何を読みとっていくかを学ぶ。 ・記録を作成するにあたり、必要な知識・技術を習得し、また演習を実施することで実践できる能力を習熟する。
2	口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞2	
3	口腔疾患予防の臨床＜基礎知識＞3	
4	生涯を通じた口腔保健管理1	
5	生涯を通じた口腔保健管理2	
6	口腔観察と口腔清掃1	
7	口腔観察と口腔清掃2	
8	口腔観察と口腔清掃3	
9	業務記録1	
10	業務記録2	
11	業務記録3	
12	口腔管理の演習1	
13	口腔管理の演習2	
14	口腔管理の演習3	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	訪問歯科保健指導	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2 年 後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

・口腔環境を整備し、的確に摂食・嚥下が出来るようになることで、要介護者のＱＯＬを高めることを学ぶ。 ・訪問歯科診療や訪問口腔ケアを実践する能力を習得するために本人及びその家族への対応法や援助・技術の方法を学ぶ。 ・※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	口腔ケアに際しての基本的心がまえ	・高齢者の生態諸機能や病態と、歯科口腔疾患との関係が説明できる。 ・摂食・嚥下のメカニズムを把握し、摂食・嚥下障害による全身への影響を説明できる。 ・訪問介護の現場における多職種との関わりを説明できる。 ・ＡＤＬに応じた口腔ケアを実施できる。 ・訪問介護における歯科衛生士の役割を説明できる。 ・訪問口腔ケアの実際を学び、演習にて実践することにより、術式を把握する。 ・在宅療養者やその家族に口腔ケアの必要性を説明できる。
2	高齢者の健康と疾病	
3	老化による機能衰退・高齢者と薬剤	
4	高齢者の口腔・高齢者に特有な口腔疾患	
5	摂食・嚥下のメカニズム(解剖・生理)	
6	訪問口腔ケアの実際Ⅰ：実践の流れ・接し方	
7	訪問口腔ケアの実際Ⅱ：専門的口腔ケア	
8	訪問口腔ケアの実際Ⅲ：摂食・嚥下指導・リハビリテーション	
9	実習：専門的口腔ケア 義歯の取り扱い	
10	実習：専門的口腔ケア 道具の工夫	
11	実習：専門的口腔ケア（器質的）	
12	実習：専門的口腔ケア（器質的）	
13	実習：専門的口腔ケア（機能的）	
14	実習：摂食・嚥下介助：食事の姿勢・調理の工夫・食器の選び方	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

生涯を通じた歯科保健対策として専門的な立場から支援できる基本的な知識を学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験を実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	ライフステージに対応した歯科衛生介入 妊産婦期	・各ライフステージ別の対象者の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。
2	ライフステージに対応した歯科衛生介入 乳児期	・各ライフステージ別の口腔衛生指導ができる。
3	ライフステージに対応した歯科衛生介入 幼児期	・各ライフステージ別の食生活指導ができる。
4	ライフステージに対応した歯科衛生介入 学齢期	・要介護高齢者の特徴を説明できる。 ・要介護高齢者への歯科衛生介入を実施できる。
5	ライフステージに対応した歯科衛生介入 青年期・成人期	・障害児者の特徴を説明できる。 ・障害児者への歯科衛生介入を実施できる。
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入 老年期	・大規模災害被災者の特徴を説明できる。 ・大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。
7	配慮を要する者への歯科介入 要介護高齢者・障害児者・大規模災害被災者	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	栄養指導	担 当 者	糖須海 圭子
担当者の 実務経験	市内の保育所および大学勤務経験を有する。管理栄養士資格を有する。		
実施時期	2 年 後期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	テキスト：歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 参考：歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝（医歯薬出版）		

授業科目の概要

栄養指導の目的、意義、栄養指導の進め方およびライフステージ別の心身や食生活の特徴について学ぶ。講義を中心に授業を進めるが、DVD視聴や演習等を行うことで、学びの理解を深める。

成績評価の方法, 基準

筆記試験及び出席状況により単位を認定する。筆記試験は100点満点とし、60点以上を合格とする。尚、授業中の私語、提出物の出し忘れや遅滞は減点対象となりますので気をつけて下さい。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	ガイダンス（栄養とは？食生活とは？）	栄養指導は対象となる個人や集団が健康の維持・増進や疾病の治療のために、自らの意志で栄養・食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるよう支援する行為である。 本講義では、栄養指導の基礎を学ぶとともに、歯科衛生士として行う保健指導に必要な栄養指導の知識・技術を習得することを目的とする。
2	栄養カウンセリング①	
3	栄養カウンセリング②（DVD）	
4	妊娠・授乳期の食生活①	
5	妊娠・授乳期の食生活②（DVD）	
6	乳児・幼児期の食生活	
7	学童・思春期の食生活	
8	成人期の食生活	
9	高齢期の食生活	
10	臨床栄養	
11	臨床栄養（DVD）	
12	日本人の食事摂取基準	
13	国民健康栄養調査・健康日本21	
14	授業の振り返りとまとめ	
15	試験	

学 科 目	歯科保健指導実習	担 当 者	山田 朋恵
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	演習・実習
単 位 数	2単位	授業回数	46回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

・2年後期に実施する幼稚園実習での口腔衛生指導の事前準備を行う。 ・2年後期に実施する障害者施設実習での口腔衛生指導の前準備を行う。 ・幼稚園実習後の反省、振り返りを行い、臨床実習へとつなげる。 ・障害者施設実習後の反省、振り返りを行い、臨床実習へとつなげる。

成績評価の方法、基準

筆記試験実施し、実習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	幼稚園実習準備：実習概要の説明、事前学習	・幼児への適した口腔衛生指導の内容を計画できる。
2	幼稚園実習準備：班割発表、役割分担	・環境設定に配慮し、適切に準備することができる。
3	幼稚園実習準備：ペーパーサ内容検討	・グループの中での自分の役割を把握し、全員で協力して実習を充実したものにする。
4～9	幼稚園実習準備：台本作成、媒体作成	・ブラッシングの重要性、う蝕になりやすいおやつと なりにくいおやつについてわかりやすいように 幼児に伝えることができる。
10～14	幼稚園実習準備：ペーパーサート練習	・幼児に楽しんで歯の大切さを知ってもらえるように 工夫できる。
15	専任教員によるペーパーサートチェック	・幼児の言葉の理解度、発達状況、行動面においての 特徴を理解できる。
16	ペーパーサートチェック後の手直し	・幼児の口腔内の特徴を確認できる。
17 18	ペーパーサートビデオ撮影	・幼児へのブラッシング指導ができる。 (含む仕上げ磨き)
19 20	ビデオチェック・リーフレット作成	・事後反省会で各自の振り返りが的確にでき、その 先につなげることができる。
21 22	ロールプレイⅠ：幼児の特徴・ブラッシング指導	
23 24	ロールプレイⅡ：染色・ペア分け・仕上げ磨き	
25	実習当日要領説明、幼児への口腔衛生指導のポイント	
26	ペーパーサート最終練習	
27	1回目幼稚園実習準備	
28	1回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
29	2回目幼稚園実習準備	
30	2回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
31	2回目幼稚園実習準備	
32	2回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
33	2回目幼稚園実習準備	
33	2回目幼稚園実習後後片付け及び反省会	
34	障害者施設実習 実習概要説明 班分け発表	・障害者実習の目的を把握する。
35	障害者施設実習 「ブラッシングの手引き」作成	・知的障害について理解する。
36～38	1回目障害者施設実習前準備	・障害者の歯科保健行動を学ぶ。
39	1回目実習後反省会・事後レポート作成・来年度への申し送り	・障害者への口腔衛生指導を学ぶ。
41～43	2回目障害者施設実習前準備	・実習にて知的障害者とのコミュニケーションの取り方、 口腔衛生指導法を確認する。
44 45	2回目実習後反省会・事後レポート作成・来年度への申し送り	・事後反省会で各自の振り返りが的確にでき、 その先につなげることができる。
46	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。 1年次の復習及び臨床実習に必要な知識の充実を図る。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。

成績評価の方法、基準

出席状況・レポート・授業態度・筆記試験等の総合評価とする。60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	仮着材・仮封材の取り扱い ワックスの取り扱い	- 仮封材や仮着材の特徴、種類、用途を理解する - ワックスの特徴、種類、用途を理解する
2	歯科機器の名称と取り扱い方1	
3	歯科機器の名称と取り扱い方2	
4	歯科機器の名称と取り扱い方3	
5	歯科機器の名称と取り扱い方4	
6	トレーセッティングと治療の流れ （口腔外科時の診療補助）	- 臨床で頻繁に使用する器材・器具について、その用途と特徴を理解する。 - 口腔外科治療の特徴を説明できる。 - 小児歯科治療の特徴を説明できる。
7	トレーセッティングと治療の流れ （小児歯科時の診療補助）	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期・後期	授業の方法	講義・演習・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	4 7 回（実技試験を含む）
テキスト及び参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

九州歯科大学附属病院実習・臨床実習を目標においた、より実践的な実習内容である。口腔観察を主眼に、直接対面行為としての診療補助力を養うことを目的としている。知識の充実と合わせて、国家試験対策の一環と考える。 1年次と同様の材料を再度取り扱い、その技術の習熟度を高める。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。
--

成績評価の方法、基準

レポート・実技試験・実習への取り組みの総合評価とする。100点満点とし、60点以上を合格とする。
--

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	仮封・仮着用セメント	・仮封仮着用セメントの取り扱いを実施する
2・3	仮封材・仮着材	・各種仮封材、仮着材の取り扱いを実施する
4・5	材料の取り扱い1	・1年次の復習を行う（印象材の取り扱い）
6・7	材料の取り扱い2	・1年次の復習を行う（石膏の取り扱い）
8	歯科診療における基礎知識3	・共同動作の概念を理解する。
9	歯科診療における基礎知識4	・フォーハンドテクニックの基本動作を実施する。
10・11	歯科診療における基礎知識5	・バキュームの基本動作を実施する。
12	歯科領域に必要な検査	・画像検査法とその補助について理解する。
13・14	口腔内写真撮影①②	・口腔内写真の撮影と補助を実施する
15	ラバーダム防湿の基礎知識	・ラバーダム防湿の目的と用途について説明できる。
16・17	ラバーダム防湿実施（1歯穿孔・多数歯穿孔）	・ラバーダム防湿を実施できる。
18・19	ラバーダム防湿：相互実習・実習試験	・ユニットでのラバーダム防湿の器具の受け渡しができる。
20・21	歯科材料の取り扱い方	・九歯大附属病院実習前の歯科材料の取り扱いを重点的に実施する。
22・23	バキュームテクニック1・ライティングテクニック	・バキュームとライティングの基礎を実施できる。
24・25	バキュームテクニック2・フォーハンドテクニック	・バキュームとスリーウェイシリンジを正しく操作できる。
26・27	プロビジョナルストレーション作製（前歯）：既製冠	・既製冠を使って、前歯部のTeCを作成する。
28・29	プロビジョナルストレーション作製（臼歯部）：筆積み法	・筆積み法で、臼歯部のTeCを作成する。
30・31	補綴治療時の診療補助（プロビジョナルストレーション：仕上げ）	・補綴治療の特徴を知り、おけるTeCの目的を理解する。
32・33	材料の取り扱い【相互実習】	・印象採得とその対応を実施できる。
34・35	材料の取り扱い【1・2年生合同実習前】	・合同実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う
36・37	1・2年生合同実習①②	・1年生の指導要綱を確認する。
38・39・40	【臨床実習前】材料の取り扱い方（印象材・石膏注入①②）	・1年生への指導を要項を元を実施する。
41・42	【臨床実習前】バキュームテクニック3	・スタディモデル作成の手順を理解する。トリマーを使用する。
43・44	【臨床実習前】バキュームテクニック4	・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
45	【実習試験前】材料の取り扱い方	・臨床実習に備えて、バキュームテクニックの復習を行う。
46・47	実技試験①②	・臨床実習に備えて、各材料の取り扱い方の復習を行う

学 科 目	歯科放射線学	担 当 者	小田 昌史
担当者の実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義・実習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生士講座 歯科放射線（永末書店）		

授業科目の概要

歯科衛生士は生涯を通じて放射線従事者として働く職業である。同時に、患者に最も近接した立場で仕事を行う性格も有している。そのため、患者からエックス線に対する質問を受ける機会も多い。こういった、質問に対し正確な知識をもって適切に解答できることは患者からの信頼に繋がる。そのために、歯科放射線学を通じてエックス線の生物学的作用を理解し、その安全性と危険性について正しく認識する必要がある。同時に、医学に対するエックス線の有用性を正しく理解することも大切である。そのために、エックス線を利用して、生体の内部構造を非侵襲的に画像化する過程を理解する。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科医療と放射線	・放射線の有用性を把握する。放射線の定義、性質を理解する。
2	放射線の人体への影響	・放射線の生物学的作用を理解する。
3	放射線の防護	・放射線の生物学的作用を理解し、その防護方法について学習する。
4	エックス線画像の形成	・エックス線画像の形成原理を理解する。
5	歯科におけるエックス線検査	・歯科で利用される画像検査装置の種類、装置構造および各種画像の特徴について理解する。
6	口内法エックス線撮影の実際	・口内法撮影とはどのようなものかを理解する。
7	口内法エックス線撮影における歯科衛生士の役割	・口内法の実際的撮影方法について歯牙ごとに理解する。
8	パノラマエックス線撮影の実際と歯科衛生士の役割	・パノラマエックス線撮影とその実際的撮影方法について学習する。
9	写真処理と画像保管の実際	・エックス線撮影後のフィルム処理の過程及び保管法を理解する。
10	放射線治療と口腔管理	・放射線を利用した口腔癌に対する治療について理解し、周術期の口腔ケアについて学習する。
11	口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
12	口内法撮影実習	・口内撮影(二等分法およびインジケータを使用)を学生間で相互実習することにより理解する。
13	パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
14	パノラマエックス線撮影実習	・パノラマエックス線撮影を学生間で相互実習することにより理解する。
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の実務経験	各施設等にて勤務経験を有する		
実施時期	2年 前期・後期	授業の方法	実習
単 位 数	5単位	授業回数	—
テキスト及び参考資料	—		

授業科目の概要

医療従事者として、医療という深く大きなものにかかわって、歯科衛生士という職業の重大さと責任を自覚していく第一歩となる。

実際の診療・施設等での共同動作・歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導の流れを理解する。

成績評価の方法、基準

実習評価・レポート他提出物・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
臨床実習 指定臨床実習施設病院にて実習を行う。 九州歯科大学附属病院実習 九州歯科大学附属病院内の診療科のうち 6日間実習を実施する。 臨地実習 歯科診療所以外の場にて実習を行う。 (幼稚園・障害者施設・人体解剖・ 特別養護老人施設 等)	・学内で習得した知識や技術を臨床の場において実践できる能力を身につける。 ・医療チームの一員として必要な能力を身につける。 ・専門職として自覚と責任を持つ。 ・歯科衛生士業務を実践するために必要な技能を身につける。 ・歯科医療の最先端である病院にて、それぞれの医局の診療内容の特徴を知る。 ・学院で習得した知識や技術を各医局の場において実践する技術、患者様とのコミュニケーション能力を身につける。 ・他職種との連携の取り方を学ぶ。 ・医療チームの一員として必要な能力を身につける。 ・園児や障害者と接することでその特性を知り、対象者に応じた指導法を考えていく。 ・解剖実習を通して、人体の構造、人の生命の大切さを学ぶ。

学 科 目	医療コミュニケーション	担 当 者	木尾 哲朗
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	ナースのためのコーチング活用術（医学書院） よき歯科医療人になるための倫理・プロフェッショナリズム教育 プロフェッションワークブック（医歯薬出版）		

授業科目の概要

医療コミュニケーション学では、患者と良好な信頼関係を築き、患者中心の医療を実現するために、必要な対話能力と態度、および考え方を身につける。そのために必要とされるコミュニケーションの重要性を理解し、その能力を身につける。

成績評価の方法, 基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	医療コミュニケーション概論 医療コミュニケーションの位置づけ	コミュニケーションとは何かを理解する
2	演習1：自分や友人を紹介してみよう	自己・他己紹介を通してコミュニケーションの特徴を体験する
3	演習2：伝達と傾聴	対人コミュニケーションのコアスキルである、「伝えるスキル」「聴くスキル」を体験する
4	医療コミュニケーションの三大コアスキル コアスキル1「聴くスキル」	対人コミュニケーションのコアスキルである、「聴くスキル」を理解する
5	演習3：聞いたことを絵に描いてみよう プロフェッショナリズムと医療コミュニケーション教育	コミュニケーション解読時のエラーを体験する 2つの教育の共通点を知る
6	演習4：伝えてみよう コアスキル2「伝えるスキル」	写真を見て効果的に相手に伝える体験を通して、伝える要素を知る
7	コミュニケーションスタイルを知る コアスキル3「尋ねるスキル」	質問法の基礎から、行動変容に繋がる質問法までを理解する
8	医療面接って何だ ジョハリの窓と行動変容	医療面接の目的と内容を理解する 行動科学と心理学から信頼を科学する
9	面接シナリオと評価チャートの作成	患者シナリオ・医療者シナリオ・面接評価表を作成する
10	演習5：(やってみよう医療面接1)	医療面接を体験する
11	解釈モデルと専門用語の使い方	患者心理を理解する
12	演習6：(やってみよう医療面接2)	医療面接を体験する
13	プロフェッショナルとして考えよう 1	事例を見て、歯科医療プロフェッショナルを考察する
14	プロフェッショナルとして考えよう 2 医療コミュニケーション総括	事例を見て、歯科医療プロフェッショナルを理解する
15	まとめ・確認試験	試験

学 科 目	摂食嚥下機能療法学	担 当 者	柿木 保明
担当者の 実務経験	歯科医師として大学病院等で勤務経験を有する		
実施時期	2 年 前期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	2 単位	授業回数	1 5 回（ 試験 1 回を含む ）
テキスト及び 参考資料	配布資料		

授業科目の概要

少子高齢社会における「障害」の医学的および社会的な概念と摂食嚥下リハビリテーションの理念を理解する。その上で、摂食機能療法に関する基礎的、臨床的な知識と手技を学ぶ。講義を行うことで学修内容について議論、検討し、より理解を深める。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	ヒトの進化と摂食嚥下リハビリテーション総論	1. 摂食機能療法におけるリハビリテーションの理念を理解する。 2. 摂食嚥下の機能障害の診断法、摂食機能療法のアプローチと主義を理解する 3. 高齢者における摂食機能療法の知識と手技を理解する 4. 発達障害児の摂食機能療法の知識と手技を理解する 5. 摂食機能障害を有する患者に対する歯科衛生士の果たす役割について理解する
2	摂食嚥下のメカニズム(解剖,生理)	
3	摂食嚥下機能の発達と老化,リハビリテーション	
4	小児の摂食嚥下障害	
5	高齢者の摂食嚥下障害	
6	摂食嚥下リハビリテーションの歯科衛生ケアプロセス	
7	摂食機能障害の検査,臨床評価	
8	口腔ケア	
9	間接訓練	
10	直接訓練	
11	食物形態と栄養管理	
12	摂食機能療法のリスクマネジメント	
13	チームアプローチ	
14	在宅医療の摂食嚥下リハビリテーション・まとめ	
15	まとめ・定期試験	

学 科 目	接遇作法	担 当 者	北岡 昭子
担当者の 実務経験	地場大企業の役員秘書、医療と社会福祉法人の両理事長秘書を歴任中に秘書業務の傍ら、自社の社員を対象に接遇指導を担当。専門学校、大学でより実践的な接遇教育を実施中。		
実施時期	2年 前期	授業の方法	講義、ロールプレイ、Gr. ワーク
単 位 数	2単位	授業回数	15回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	配布資料		

授業科目の概要

医療や社会福祉等の現場に特化しない社会人基礎力となる大人の教養を中心とした接遇作法の基本を学び、実践できる力を身に付けることをねらいとする。相手や状況に応じて言動を選択できる「相手基準の接遇」を学ぶ。

成績評価の方法、基準

平常点（受講態度・参加姿勢・ワークへの取り組み）、ロールプレイ実技評価、課題等提出物を総合的に評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	オリエンテーション／理想の接遇とは	・基本的なマナー（挨拶、敬語、身だしなみ、立ち居振る舞い等）が実践できる。 ・職場組織の一員として、周囲と信頼関係を築くための態度や心構えを述べることができる。 ・好感もてる応対（電話、案内、名刺交換）ができる。 ・マナーに沿ってメールや手紙を書くことができる。 ・学生と社会人の違いを理解し、特に信頼されるプロに必要な意識や心構えを述べることができる。 ・クレームや困難な場面においても、冷静に相手基準で対応できる。
2	相手基準の接遇とは／相手の立場に立つ練習（ワーク）	
3	好印象を与えるコミュニケーション①（第一印象、挨拶、お辞儀、表情）	
4	好印象を与えるコミュニケーション②（身だしなみ、立ち居振る舞い、話し方・聴き方）	
5	社会人が使う言葉づかい／言葉づかいの正誤、くせ	
6	社会人が使う敬語／尊敬語と謙譲語の基本と応用	
7	ビジネスメールマナー	
8	手紙の心得／お礼状を書く	
9	社会人としての教養①（職場での人間関係、コミュニケーション、報連相）	
10	社会人としての教養②（時間管理、コスト意識、プロ意識）	
11	社会人としての教養③（名刺交換の作法、席次、茶菓接待）	
12	電話応対／好感もてる電話応対とは	
13	クレーム対応／患者満足度を上げるには	
14	総復習、身だしなみ実践、立ち居振る舞い実践	
15	定期試験	

学 科 目	情報処理論	担 当 者	守下 昌輝
担当者の 実務経験	—		
実施時期	3 年 前期	授業の方法	講義・演習
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（ 試験1回を含む ）
テキスト及び 参考資料	キーワードで学ぶ最新情報トピックス2026（日経B P）		

授業科目の概要

PCを用いた実務作業のスタンダードである,Microsoft OfficeのWord, Excel, PowerPointについて, 各々のソフトウェアの機能や役割について講義を通じて理解し, 演習を通じて習得する。
また, OS, 著作権法, ネットリテラシー, Exif情報について, 理解する。

成績評価の方法, 基準

講義態度, 定期試験で評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	情報処理概論(1) コンピュータやインターネットの歴史を理解する。 著作権法を理解する。	① Officeソフトを用いて, 情報処理の方法について理解し, 実践できる。 ② 著作権法, ネットリテラシー, Exif情報を理解し, 正しい知識を持ち, インターネットの利用方法を理解する。
2	情報処理概論(2) ネットリテラシー, Exif情報を理解する。 ビジネスメールの書き方を学び, 実践する。	
3	Wordの使い方を知る(1) 書類送付状, 履歴書を作成する。	
4	Wordの使い方を知る(2) 名刺, リコールはがきを作成する。	
5	Excelの使い方を知る(1) データ入力の基礎を理解する。	
6	Excelの使い方を知る(2) 関数を使った計算の方法を理解する。	
7	PowerPointの使い方を知る スライド作成の基礎と方法を理解する。	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	社会福祉論	担 当 者	秋房 住郎
担当者の 実務経験	—		
実施時期	3 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組み 2 保健・医療・福祉の精度(医歯薬出版)		

授業科目の概要

社会保障制度は国民の安心や生活の安定を支えるセーフティネットであり、歯科保健医療サービスの提供も同制度に基づき行われることが多い。歯科衛生士は患者に直接対応する職種であることから、社会保障制度の中でも特に医療保険や介護保険の仕組みや意義を認識した上で業務に携わることが必要となっている。社会福祉論の講義では、主に社会保険や社会福祉の各制度や法規について、歯科医療従事者として理解しておくべき基本的事項を学習する。

成績評価の方法、基準

筆記試験 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	社会保障制度の概要 社会保険行政	社会福祉論では、社会保障制度の概要を理解し、社会保険や社会福祉の各制度について概説できることを学習目標とします。 講義内容に沿った個別の到達目標は下記の通りです。 ①社会保障制度の概要について理解する。 ②社会保険行政を概説できる。 ③医療保険制度を概説できる。 ④医療保険の実際を理解する。 ⑤年金制度を概説できる。 ⑥雇用保険、労働者災害補償制度を概説できる。 ⑦介護保険制度を概説できる。 ⑧社会福祉行政を概説できる。 ⑨生活保護制度を概説できる。 ⑩児童と家庭の福祉制度を概説できる。 ⑪障害者の福祉制度を概説できる。 ⑫高齢者の福祉制度を概説できる。
2	医療保険制度と法規	
3	医療保険の実際	
4	年金制度と法規 雇用保険及び労働者災害補償制度と法規	
5	介護保険制度と法規	
6	社会福祉行政 生活保護制度と法規 児童と家庭の福祉制度と法規	
7	障害者の福祉制度と法規 高齢者の福祉制度	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	地域保健	担 当 者	邵 仁浩
担当者の 実務経験	—		
実施時期	3 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 第2版（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

地域保健では、歯科衛生士教育の専門基礎分野である「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み」の中で健康に関わる地域の役割を根拠となる法律を踏まえて学習する。具体的には、公衆衛生の法的根拠と国の責務、健康と疾病の概念、地域保健活動（行政組織の概要、母子保健、成人・高齢者保健、学校保健、精神保健等）、産業保健（職業性疾病、労働災害を含む）、災害時の保健医療対策、国際保健協力等について学習し、わが国の保健医療対策の現況等について理解を深める。

成績評価の方法、基準

筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	地域保健・公衆衛生 地域保健の概念、地域保健の行政組織、保健所・市町村保健センターの役割等について学習する。	・ 地域保健活動の概念、健康日本21（第2次）等の健康づくり対策、歯科保健目標を説明できる。
2	母子保健 母子保健の目的および概要等について学習する。	・ 産業保健の概念、職業性疾病、労働災害、安全衛生管理体制と健康管理対策等を説明できる。
3	学校保健 学校保健の目的および概要、学校保健の活動と組織等について学習する。	・ 精神保健対策の意義と活動を説明できる。
4	成人保健 学校保健の意義と特徴、成人保健対策等について学習する。	・ 災害時の保健医療対策と活動、世界保健機関の活動、諸外国との国際協力等を説明できる。
5	産業保健 産業保健の概念、職業性疾病、産業保健管理等について学習する。	
6	老人（高齢者）保健・精神保健 老人（高齢者）保健の意義、精神保健対策のあゆみと現況、精神障害者医療の概要等について学習する。	
7	災害時の歯科保健・国際保健 災害保健活動の概要、災害時の歯科保健医療対策、災害時の個人識別等、また、世界保健機関の役割、諸外国との国際協力・国際交流活動等について学習する。	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科予防処置実習Ⅱ（歯周病予防）	担 当 者	山口 絵里
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3 年 前期	授業の方法	実習
単 位 数	1 単位	授業回数	2 4 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

実習の総仕上げとして、患者実習・臨床実習に備える。手技や知識の充実を図り、より一層の実技の向上を目指す。その為に繰り返し訓練し、力をつける。

成績評価の方法、基準

実習態度・レポート・筆記試験等の総合評価とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容		到 達 目 標
1	プロービング	下顎 相互実習	・ 歯科予防処置を的確に行う技術を身につける。 ・ 3年間の総仕上げと考え、各操作の手順や器具の準備がスムーズに行えるように練習を繰り返す。 ・ また、1回の操作に対する、時間短縮・操作の丁寧さを目標に技術を習得し、即戦力とされるよう努力する。
2	プロービング	下顎 相互実習	
3	エアーフロー	模型実習	
4	エアーフロー	相互実習	
5	PMTc	模型実習	
6	PMTc	相互実習	
7	超音波スケーラーと研磨実習	相互実習	
8	超音波スケーラーと研磨実習	相互実習	
9	プロービング	全顎 相互実習	
10	プロービング	全顎 相互実習	
11	超音波スケーラー仕上げ1	相互実習	
12	超音波スケーラー仕上げ1	相互実習	
13	鎌型スケーラー	模型実習	
14	キュレットスケーラー	模型実習	
15	手用スケーラー	相互実習	
16	手用スケーラー	相互実習	
17	超音波スケーラー仕上げ2	相互実習	
18	超音波スケーラー仕上げ2	相互実習	
19	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
20	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
21	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
22	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
23	プロービング・超音波S・歯面研磨相互実習		
24	まとめ・定期試験		

学 科 目	歯科保健指導論	担 当 者	山田 朋恵
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3 年 前期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	8 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）		

授業科目の概要

1年生を患者に見立て対象者の抱えている問題を明確化し、問題の解決方法を計画し、介入していくために必要な一連の思考と行動のプロセスを学ぶ。

※授業の理解度に応じ、授業内容の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験実施し、学習に対する取り組む姿勢も加えて評価する。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科衛生過程の進め方	・ 歯科衛生過程のマネジメントサイクルを理解し全体像を説明できる。
2	歯科衛生アセスメント	・ 歯科衛生過程における各構成要素の目的を説明できる。
3	う蝕について（復習）	・ 歯科衛生過程における書面化（業務記録）の意義を説明できる。
4	歯周病について（復習）	・ 口腔内の付着物・沈着物の種類と成分を説明できる。
5	食生活指導について（復習）	・ う蝕の分類、原因が明確に説明できる。
6	顎関節症、態癖について	・ 歯周病の分類、原因が明確に説明できる。
7	ブラッシング法、清掃用具について（復習） 予防の重要性について	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助論	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1単位	授業回数	8回（試験1回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

基礎知識の習得を目的とし、歯科診療補助における歯科衛生士の役割を理解すると共に、基本理念を培う。
2年次の復習及び臨床実習に必要な知識の充実を図る。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。

成績評価の方法、基準

筆記試験及び学習に対する取り組み姿勢も加えて評価する。
筆記試験を行い、100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1	歯科診療で扱う歯科材料のまとめ（国家試験対策）	・学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる歯科診療補助論についてまとめの総講義を行う
2	歯科訪問診療における対応（国家試験対策）	
3	医療安全と感染予防（国家試験対策）	
4	主な全身疾患とその対応（国家試験対策）	
5	治療時に必要な歯科機器（国家試験対策）	
6	周術期における歯科診療の補助（国家試験対策）	
7	口腔機能低下症（国家試験対策）	
8	まとめ・定期試験	

学 科 目	歯科診療補助実習	担 当 者	鷲頭 成子
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3 年 前期・後期	授業の方法	講義
単 位 数	1 単位	授業回数	2 4 回（試験 1 回を含む）
テキスト及び 参考資料	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科機器（医歯薬出版） 歯科衛生学シリーズ 歯科材料学（医歯薬出版）		

授業科目の概要

実践的な実習内容で診療補助能力の養成を行う。また、国家試験対策として、エビデンスに基づく思考及び知識の定着を図る。材料の取り扱いは、1年次より積み上げてきた技術が、最終段階に到達することを、目標に訓練を行う。但し、授業の理解度に応じ、授業内容、講義順の変更あり。
--

成績評価の方法、基準

筆記試験実施し、実習に対する取り組む姿勢も加えて100点満点とし、60点以上を合格とする。

年間授業計画

回数	授 業 内 容	到 達 目 標
1・2	【合同実習前】総合実習①②（印象採得・模型作製）	・ 合同実習の準備の為に、各種検査や資料の収集を行う (印象採得及びスタディモデルの作成)
3・4	【臨床実習前】総合実習①②（印象採得・模型作製）	
5・6	臨床実習対応プロビジョナルストレーション作製 (前歯部) 印象採得法	・ 印象採得したものを利用し作成する。
7・8	臨床実習対応プロビジョナルストレーション作製： (臼歯部) 一括練和法	・ 一括練和したレジンから作成する。
9・10	臨床実習対応プロビジョナルストレーション作製：仕上げ	
11・12	臨床実習対応：仮封材・仮着材の取り扱い	・ 様々な仮封材、仮着材の特性を理解し、一連の流れを実施する。
13・14 15・16	臨床実習対応：バキューム応用①②③④	・ 部位別操作方法を習得する ・ ユニットでの口腔内写真撮影を行う。（5枚法）
17・18	臨床実習対応：材料の取り扱い	・ 臨床実習をより充実させるために、技術の向上を図る。
19	臨床実習対応：歯科機器の取り扱い	
20・21	臨床実習対応：補綴治療時の診療補助 印象採得（寒天アルジネート印象材）	・ 支台築造の手順と目的を理解し、間接法での支台築造の作成過程を理解する。
22・23	臨床実習対応：補綴治療時の診療補助 (シリコーンゴム印象材)	・ 歯肉圧排とその目的、使用器具を理解する。
24	定期試験	

学 科 目	臨地・臨床実習	担 当 者	実習指導者
担当者の 実務経験	歯科医院、施設等にて勤務経験を有する		
実施時期	3 年	授業の方法	実習
単 位 数	1 4 単位	授業回数	—
テキスト及び 参考資料	—		

授業科目の概要

修得した知識や技術をより正確なものとし、歯・口腔及び全身の健康支援、歯周病の予防と高齢者・要介護者に対する専門性の向上及び医療チームの一員として必要な技能を身につける。専門性の確立及び人間的なコミュニケーション能力を身に付け、充実した実習をなし、机上理解でなく、臨床実習の現場で学び吸収する。

成績評価の方法、基準

実習評価・レポート他提出物・出席状況・実習態度等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
臨床実習 指定臨床実習施設病院にて実習を行う。	・ 臨床能力を高め、思いやりと社会性を持った口腔保健を担う者として即戦力となる能力を養う。 ・ 症例に応じた器材を準備できる。 ・ 治療の流れを把握し、歯科診療補助、介助を行なえる。 ・ 指示された方法で、う蝕予防処置を行う。 ・ 指示された方法でスケーリングを行える。 ・ 指示された方法でスブラッシング指導を行える。

学 科 目	校内実習	担 当 者	実習指導者
担当者の 実務経験	歯科衛生士として市内歯科医院勤務経験を有する		
実施時期	3 年 前期・後期	授業の方法	演習・実習・実技
単 位 数	1 単位	授業回数	1 5 回
テキスト及び 参考資料	—		

授業科目の概要

他の学年との相互実習で施術を経験する。その経験に基づいて、自分に不足している技術や知識を認識し、臨床実習で習得を心がけより充実したものとなるようにする。

成績評価の方法、基準

出席状況・レポート他提出物・課題等の総合評価とする。

年間授業計画

授 業 内 容	到 達 目 標
合同実習	・ 歯科衛生過程の基本的な考え方で他学年に対し展開できる。 ・ コミュニケーション能力の訓練の場とする。 ・ 学生間の交流を持ち、緊張感を保ちながら相互実習をする。 ・ 医療面接の目的を把握し、実施できる。 ・ う蝕活動性試験を説明できる。 ・ 歯周病に関連する検査を説明できる。 ・ 口腔清掃や歯周疾患の指数を計算できる。
除石競技大会	
綿栓競技大会	・ 日頃の訓練の成果を学年ごとに競い、その成果を発揮する。

合同実習

除石競技大会

綿栓競技大会

到 達 目 標

- ・ 歯科衛生過程の基本的な考え方で他学年に対し展開できる。
- ・ コミュニケーション能力の訓練の場とする。
- ・ 学生間の交流を持ち、緊張感を保ちながら相互実習をする。
- ・ 医療面接の目的を把握し、実施できる。
- ・ う蝕活動性試験を説明できる。
- ・ 歯周病に関連する検査を説明できる。
- ・ 口腔清掃や歯周疾患の指数を計算できる。
- ・ 日頃の訓練の成果を学年ごとに競い、その成果を発揮する。